

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	備考																																																																																																																																																																					
	<p>現 行</p> <p><b>3章 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工</b></p> <p><b>3.1 発泡スチロールを用いた超軽量盛土工</b></p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>超軽量材としての発泡スチロールを盛土、擁壁および橋台等の抗土圧構造物の裏込め等に使用する発泡スチロール工を人力で施工する場合に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>軽量盛土（発泡スチロールブロック）、コンクリート床版の数量を区分毎に算出する。また、壁体構造（壁面材設置）の場合は、基礎コンクリート、支柱、壁面材についても区分毎に数量を算出する。</p> <p>注）1. 軽量盛土（発泡スチロール）の排水材（不織布：厚さ10mm以下）、基礎砕石（敷均し厚20cm以下）、敷砂（敷均し厚10cm以下）については必要の有無を確認する。 また、基礎砕石（敷均し厚20cmを超える場合）については、注）2により別途数量をとりまとめるものとし、排水材（不織布：厚さ10mmを超える場合）、敷砂（敷均し厚10cmを超える場合）については別途考慮するものとする。 2. 基礎砕石については、「第1編（共通編）9. 1 砕石基礎工」によるものとする。 3. コンクリートについては、「第1編（共通編）4. 1 コンクリート工」によるものとする。 4. 鉄筋については、「第1編（共通編）4. 3. 1 鉄筋工」によるものとする。 5. 型枠については、「第1編（共通編）4. 2 型枠工」によるものとする。</p>	<p>改 正</p> <p>現 行</p> <p>現行どおり</p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>超軽量材としての発泡スチロールを盛土、擁壁および橋台等の抗土圧構造物の裏込め等に使用する発泡スチロール工を人力で施工する場合に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>発泡スチロール設置、発泡スチロール（材料費）、緊結金具（材料費）、コンクリート床版、支柱結合アンカー（材料費）、支柱設置、支柱（材料費）、壁面材設置、壁面材（材料費）、裏込砕石（軽量盛土）の数量を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、規格、雑工種、生コンクリート規格、養生工、圧送管延長距離、床板厚さ、溶接金網規格、盛土高、附帯工の割合、砕石の種類とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>区 分</th> <th>規格</th> <th>雑工種</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>養生工</th> <th>圧送管延長距離</th> <th>床板厚さ</th> <th>溶接金網規格</th> <th>盛土高</th> <th>附帯工の割合</th> <th>砕石の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発泡スチロール設置</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>発泡スチロール（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>緊結金具（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート床版</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支柱結合アンカー（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支柱設置</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支柱（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁面材設置</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>壁面材（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込砕石（軽量盛土）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注）1. 軽量盛土（発泡スチロール）の排水材（不織布：厚さ10mm以下）、基礎砕石（敷均し厚20cm以下）、敷砂（敷均し厚10cm以下）を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。</p>	項 目	区 分	規格	雑工種	生コンクリート規格	養生工	圧送管延長距離	床板厚さ	溶接金網規格	盛土高	附帯工の割合	砕石の種類	単位	数量	備考	発泡スチロール設置		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	m <sup>3</sup>			発泡スチロール（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m <sup>3</sup>			緊結金具（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	個			コンクリート床版		○	×	○	○	○	○	×	×	×	×	m <sup>3</sup>			支柱結合アンカー（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m <sup>3</sup>			支柱設置		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本			支柱（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本			壁面材設置		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m <sup>2</sup>			壁面材（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m <sup>2</sup>			裏込砕石（軽量盛土）		○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	m <sup>3</sup>			
項 目	区 分	規格	雑工種	生コンクリート規格	養生工	圧送管延長距離	床板厚さ	溶接金網規格	盛土高	附帯工の割合	砕石の種類	単位	数量	備考																																																																																																																																																										
発泡スチロール設置		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	m <sup>3</sup>																																																																																																																																																												
発泡スチロール（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m <sup>3</sup>																																																																																																																																																												
緊結金具（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	個																																																																																																																																																												
コンクリート床版		○	×	○	○	○	○	×	×	×	×	m <sup>3</sup>																																																																																																																																																												
支柱結合アンカー（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m <sup>3</sup>																																																																																																																																																												
支柱設置		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本																																																																																																																																																												
支柱（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本																																																																																																																																																												
壁面材設置		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m <sup>2</sup>																																																																																																																																																												
壁面材（材料費）		○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m <sup>2</sup>																																																																																																																																																												
裏込砕石（軽量盛土）		○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	m <sup>3</sup>																																																																																																																																																												
積算上の注意事項	3-2-14		(控え頁) 1/4																																																																																																																																																																					

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

**3. 区分**

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項 目	区 分	規 格	必要性 の有無	単 位	数 量	備 考
軽量盛土 (発泡スチロール)			○	—	m <sup>3</sup>	○
排水材	厚さ 10mm以下		×	○	—	×
	(不織布) 厚さ 10mm超え		○	—	m <sup>2</sup>	○
基礎	敷均し厚 20cm 以下		×	○	—	×
	敷均し厚 20cm 超え		○	—	m <sup>2</sup>	○
砕石	敷均し厚 10cm 以下		×	○	—	×
	敷均し厚 10cm 超え		×	—	m <sup>3</sup>	○
コンクリート床版			○	—	m <sup>2</sup>	注) 2
床版コンクリート			○	—	m <sup>3</sup>	注) 3
溶接金網			○	—	m <sup>2</sup>	○
支柱結合アンカー			○	—	本	※ 10m <sup>3</sup> 当り数量を算出
基礎コンクリート			—	—	m	○
基礎砕石			○	—	m <sup>2</sup>	○
	コンクリート		○	—	m <sup>3</sup>	○
鉄筋			○	—	t	○
	型枠		○	—	m <sup>2</sup>	○
支柱			○	—	本	○
壁面			—	—	m <sup>2</sup>	○
壁面材			○	—	枚	○ ※ 10m <sup>3</sup> 当り数量を算出
	壁面材固定金具		○	—	個	○ ※ //
裏込砕石					m <sup>3</sup>	○
	盛土高 6m以下		○	—	m <sup>3</sup>	○
	盛土高 6m超				m <sup>3</sup>	○

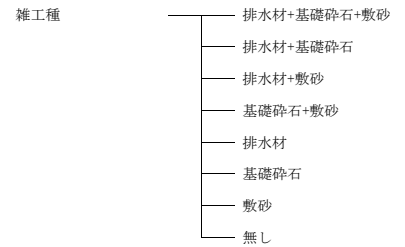
注) 1. 必要に応じて各項目毎に数量を算出する。  
 2. コンクリート床版の規格は厚さとする。  
 3. 圧送管延長がコンクリートポンプ車から作業範囲 30m を超える場合は、圧送管組立撤去の延長を区分する。

**4. 数量算出方法**

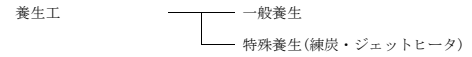
数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるものとする。

- 雑工種における材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。
- 発泡スチロールブロックの固定のためにL型ピンの設置が必要な場合は別途考慮する。
- コンクリート床版にグランドアンカー等を結合する場合は別途考慮する。
- ベースプレート式H型鋼支柱(H型鋼規格はH300mm×300mm以下、長さ9m以下)を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。
- 壁面材 1枚当りの規格は、長さ 2.5m 以下、幅 0.6m 以下、重量 170kg 以下を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。

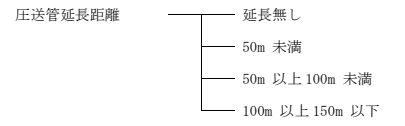
(2) 発泡スチロール設置の雑工種による区分は、以下のとおりとする。



(3) コンクリート床版の養生工による区分は、以下のとおりとする。



(4) コンクリート床版の生コンクリート規格による区分は、以下のとおりとする。

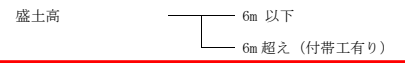


注) 圧送管延長距離区分は、作業範囲 (30m) を超えて圧送管を延長する場合に、超えた部分の延長距離を該当する区分から選択する。

(5) コンクリート床版の床版厚さによる区分は、以下のとおりとする。



(6) 裏込砕石 (軽量盛土) の盛土高による区分は、以下のとおりとする。



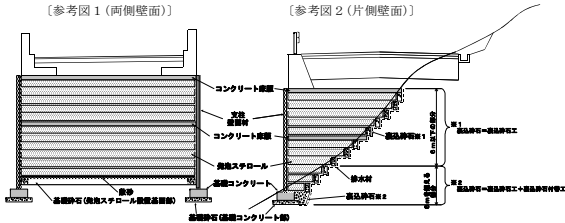
改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																													
現 行	改 正	備 考																													
	<p>(7) 裏込砕石（軽量盛土）の付帯工の割合による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>付帯工の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 0.1 以下</li> <li>— 0.1 を超え 0.2 以下</li> <li>— 0.2 を超え 0.3 以下</li> <li>— 0.3 を超え 0.4 以下</li> <li>— 0.4 を超え 0.5 以下</li> <li>— 0.5 を超え 0.6 以下</li> <li>— 0.6 を超え 0.7 以下</li> <li>— 0.7 を超え 0.8 以下</li> <li>— 0.8 を超え 0.9 以下</li> <li>— 0.9 を超え 1.0 以下</li> </ul> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート （基礎コンクリート部）</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>「第1編（共通編）4. 1コンクリート工」参照</td> </tr> <tr> <td>型枠 （基礎コンクリート部）</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>「第1編（共通編）4. 2型枠工」参照</td> </tr> <tr> <td>鉄筋工 （基礎コンクリート部）</td> <td>t</td> <td></td> <td>「第1編（共通編）4. 3. 1鉄筋工」参照</td> </tr> <tr> <td>基礎材 （基礎コンクリート部）</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>「第1編（共通編）9. 1砕石基礎工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4. 数量算出方法</b> 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 発泡スチロール（材料費）は、ロス率を以下とし体積（m<sup>3</sup>）を算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>ロ ス 率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発泡スチロール</td> <td>+0.03</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 繋結金具（材料費）の発泡スチロールm<sup>3</sup>当りの使用量は、ロス率を含み以下とし個数を算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>数 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金欠金具</td> <td>2.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 支柱結合アンカー（材料費）は、規格ごとにコンクリート床板体積当りの必要本数（本/m<sup>3</sup>）を算出する。</p> <p>(4) 支柱（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。</p> <p>(5) 壁面材（材料費）は、壁面固定金具を含み、規格ごとに壁面面積当りの必要数量（枚/m<sup>2</sup>及び個/m<sup>2</sup>）を算出する。</p> <p>(6) 裏込砕石（軽量盛土）は、設計数量を算出する。</p>	項目	単位	数量	備考	コンクリート （基礎コンクリート部）	m <sup>3</sup>		「第1編（共通編）4. 1コンクリート工」参照	型枠 （基礎コンクリート部）	m <sup>2</sup>		「第1編（共通編）4. 2型枠工」参照	鉄筋工 （基礎コンクリート部）	t		「第1編（共通編）4. 3. 1鉄筋工」参照	基礎材 （基礎コンクリート部）	m <sup>2</sup>		「第1編（共通編）9. 1砕石基礎工」参照	項 目	ロ ス 率	発泡スチロール	+0.03	項 目	数 量	金欠金具	2.3		
項目	単位	数量	備考																												
コンクリート （基礎コンクリート部）	m <sup>3</sup>		「第1編（共通編）4. 1コンクリート工」参照																												
型枠 （基礎コンクリート部）	m <sup>2</sup>		「第1編（共通編）4. 2型枠工」参照																												
鉄筋工 （基礎コンクリート部）	t		「第1編（共通編）4. 3. 1鉄筋工」参照																												
基礎材 （基礎コンクリート部）	m <sup>2</sup>		「第1編（共通編）9. 1砕石基礎工」参照																												
項 目	ロ ス 率																														
発泡スチロール	+0.03																														
項 目	数 量																														
金欠金具	2.3																														
積算上の注意事項			(控え頁) 3/4																												

工 種	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工
-----	-------------------

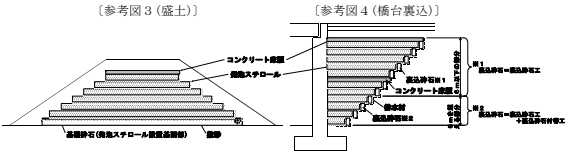
改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	備考
	<p>現 行</p>	<p>改 正</p> <div data-bbox="188 395 965 520" style="border: 2px solid red; width: 347px; height: 78px; margin-bottom: 10px;"></div> <div data-bbox="1084 395 1930 523" style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>(7) 付帯工の割合は下式にて算出する。</p> <math display="block">\text{付帯工の割合} = \frac{\text{裏込砕石工の盛土高6mを超える部分の設計量(m}^3\text{)}}{\text{裏込砕石工全体の設計量(m}^3\text{)}}</math> <p style="text-align: right;">設計量(m<sup>3</sup>): ロスを含まない数量</p> </div> <div data-bbox="1084 536 1146 1059" style="font-size: 4em; vertical-align: middle; margin-left: 10px;">}</div> <p style="margin-left: 20px;">現行どおり</p>	<p>備 考</p>
<p>積算上の注意事項</p>	<p>3-2-16</p>		<p>(控え頁) 4/4</p>

5. 参考図

(1) 壁体構造を伴う場合



(2) 壁体構造を伴わない場合



改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	備考																																																																				
	<p><b>5.1.4 プレキャストコンクリート板設置工</b></p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>プレキャストコンクリート板をグラウンドアンカーに緊結する工法に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>プレキャストコンクリート板、ジョイント等の数量を区分毎に算出する。</p> <p>注) アンカーの施工については、「第1編（共通編）1.1.10 アンカー工」によるものとする。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プレキャストコンクリート板</td> <td>○</td> <td>枚</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジョイント</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. プレキャストコンクリート板の1列当り平均据付枚数を20枚未満、20枚以上30枚未満、30枚以上に分けて算出すること。  1列当り平均据付枚数＝総据付枚数／施工列数  1列当り平均据付枚数は、1工事単位とする。  2. ジョイント処理にモルタルが必要な場合は、モルタル使用量 (m<sup>3</sup>/箇所) 及び規格を備考欄に記入すること。また、1箇所当りに必要な連結金物も明記すること。  3. 斜面とプレキャストコンクリート板との間に発生する空隙に対して、裏込工を施工する場合は、別途算出すること。  4. 足場が必要な場合は、別途算出すること。</p> <p>(2) 規格区分  使用するプレキャストコンクリート板のタイプ別に区分して算出する。</p> <p>プレキャストコンクリート板 ———— クロスタ입  ————— セミスクエアタイプ  ————— スクエアタイプ</p>	項目	区分	規格	単位	数量	備考	プレキャストコンクリート板	○	枚				ジョイント	○	箇所				<p>現行どおり</p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>グラウンドアンカーとプレキャストコンクリート板を緊結することにより、斜面等の安定化を図る工法に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>プレキャストコンクリート板、プレキャストコンクリート板（材料費）、ジョイント処理、ジョイント金物（材料費）の数量を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、規格、フレームタイプ、1列当り平均据付枚数、モルタル規格、モルタル使用量 (m<sup>3</sup>/箇所) とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>フレームタイプ</th> <th>1列当り平均据付枚数</th> <th>モルタル規格</th> <th>モルタル使用量 (m<sup>3</sup>/箇所)</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プレキャストコンクリート板</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>枚</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレキャストコンクリート板 (材料費)</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>枚</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジョイント処理</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジョイント金物 (材料費)</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>組</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) プレキャストコンクリート板のフレームタイプによる区分は、以下のとおりとする。</p> <p>プレキャストコンクリート板 ———— クロスタ입  ————— セミスクエアタイプ・スクエアタイプ</p> <p>(3) プレキャストコンクリート板の1列当り平均据付枚数による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>1列当り平均据付枚数 ———— 20枚未満  ————— 20枚以上30枚未満  ————— 30枚以上</p> <p>(4) ジョイント処理のモルタル規格による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>モルタル規格 ———— 1：3モルタル（普通）  ————— 1：3モルタル（高炉B）  ————— モルタル不要</p>	項目	区分	規格	フレームタイプ	1列当り平均据付枚数	モルタル規格	モルタル使用量 (m <sup>3</sup> /箇所)	単位	数量	備考	プレキャストコンクリート板	○	○	○	○	×	×	枚			プレキャストコンクリート板 (材料費)	○	×	×	×	×	×	枚			ジョイント処理	○	×	×	○	○	○	箇所			ジョイント金物 (材料費)	○	×	×	×	×	×	組			
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																		
プレキャストコンクリート板	○	枚																																																																					
ジョイント	○	箇所																																																																					
項目	区分	規格	フレームタイプ	1列当り平均据付枚数	モルタル規格	モルタル使用量 (m <sup>3</sup> /箇所)	単位	数量	備考																																																														
プレキャストコンクリート板	○	○	○	○	×	×	枚																																																																
プレキャストコンクリート板 (材料費)	○	×	×	×	×	×	枚																																																																
ジョイント処理	○	×	×	○	○	○	箇所																																																																
ジョイント金物 (材料費)	○	×	×	×	×	×	組																																																																
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																																				

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																													
現 行	改 正		備 考																																												
	<p>(5) ジョイント処理のモルタル使用量 (m<sup>3</sup>/箇所) による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>モルタル使用量 (m<sup>3</sup>/箇所)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 0.016m<sup>3</sup> 以下</li> <li>— 0.016m<sup>3</sup> 超え0.032m<sup>3</sup> 以下</li> <li>— 0.032m<sup>3</sup> 超え0.050m<sup>3</sup> 以下</li> </ul> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削孔 (アンカー)</td> <td>m</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 11. 10 アンカー工」参照</td> </tr> <tr> <td>アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理 (アンカー)</td> <td>本</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 11. 10 アンカー工」参照</td> </tr> <tr> <td>グラウト注入 (アンカー)</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 11. 10 アンカー工」参照</td> </tr> <tr> <td>ボーリングマシン移設 (アンカー)</td> <td>回</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 11. 10 アンカー工」参照</td> </tr> <tr> <td>泥排水処理工</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>アンカー (材料費)</td> <td>本</td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 11. 10 アンカー工」参照</td> </tr> <tr> <td>裏込工</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>ジョイント処理工 (スクエアタイプ)</td> <td>箇所</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>目地工 (スクエアタイプ)</td> <td>m</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>足場工</td> <td>空m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table>	項目	単位	数量	備考	削孔 (アンカー)	m		「第1編 (共通編) 11. 10 アンカー工」参照	アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理 (アンカー)	本		「第1編 (共通編) 11. 10 アンカー工」参照	グラウト注入 (アンカー)	m <sup>3</sup>		「第1編 (共通編) 11. 10 アンカー工」参照	ボーリングマシン移設 (アンカー)	回		「第1編 (共通編) 11. 10 アンカー工」参照	泥排水処理工	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上	アンカー (材料費)	本		「第1編 (共通編) 11. 10 アンカー工」参照	裏込工	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上	ジョイント処理工 (スクエアタイプ)	箇所		必要な場合別途計上	目地工 (スクエアタイプ)	m		必要な場合別途計上	足場工	空m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上		
項目	単位	数量	備考																																												
削孔 (アンカー)	m		「第1編 (共通編) 11. 10 アンカー工」参照																																												
アンカー鋼材加工・組立・挿入・緊張・定着・頭部処理 (アンカー)	本		「第1編 (共通編) 11. 10 アンカー工」参照																																												
グラウト注入 (アンカー)	m <sup>3</sup>		「第1編 (共通編) 11. 10 アンカー工」参照																																												
ボーリングマシン移設 (アンカー)	回		「第1編 (共通編) 11. 10 アンカー工」参照																																												
泥排水処理工	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上																																												
アンカー (材料費)	本		「第1編 (共通編) 11. 10 アンカー工」参照																																												
裏込工	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上																																												
ジョイント処理工 (スクエアタイプ)	箇所		必要な場合別途計上																																												
目地工 (スクエアタイプ)	m		必要な場合別途計上																																												
足場工	空m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上																																												
	<p><b>4. 数量算出方法</b></p> <p>数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) プレキャストコンクリート板 (材料費) は、規格ごとに枚数を算出する。</li> <li>(2) ジョイント金物 (材料費) は、ジョイント金物の他、連結ボルト等、必要な金具類を含み、規格ごとにジョイント1組当りの必要数量及び組数を算出する。</li> <li>(3) 斜面とプレキャストコンクリート板との間に発生する空隙に対して、裏込工を施工する場合は、別途考慮する。</li> <li>(4) スクエアタイプにおけるジョイント処理及び目地工は、別途考慮する。</li> <li>(5) プレキャストコンクリート板の1列当り平均据付枚数は、下式により算出する。  <math display="block">1 \text{ 列当り平均据付枚数} = \text{総据付枚数} \div \text{施工列数}</math> </li> <li>(6) 1列当り平均据付枚数は、1工事単位とする</li> </ol>																																														
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2																																												

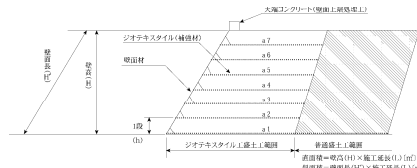
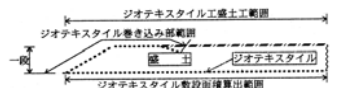
改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																																																																						
現行	改正	備考																																																																																																						
<p><b>5.5.2 石積(張)工</b></p> <p><b>1. 適用</b> 玉石及び雑割石の積工及び張工に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b> 石積(張)面積を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b> 区分は、石の種類、構造とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>構造</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>石積(張)</td> <td>○</td> <td></td> <td rowspan="6">○</td> <td>㎡</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込材</td> <td>○</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>胴込コンクリート</td> <td>○</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込コンクリート</td> <td>○</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>水抜きパイプ</td> <td>○</td> <td></td> <td>m(本)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吸出し防止材</td> <td>○</td> <td></td> <td>㎡</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 基礎コンクリート工、天端コンクリート工は、「第1編(共通編) 5章法覆工 5.4コンクリートブロック積(張)工 3.区分」によるものとする。 (注2) 石積工は法勾配が1割未満、張工は勾配1割以上の場合である。</p> <p>(2) 石の種類区分 石積(張)の面積を玉石及び雑割石に区分して算出する。</p> <p>(3) 構造区分 石積(張)の面積を空石張及び練積(張)に区分して算出する。</p> <p><b>4. 数量算出方法</b> 数量の算出は、「1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 胴込コンクリート量は、玉石の場合は面積に控長の1/3を、雑割石の場合は1/2を乗じたものとする。</p> <p>(2) 空石張の胴込材の量は、面積に玉石の控長の1/3を乗じたものとする。</p> <p>(3) 裏込コンクリート及び裏込材の量は、面積に必要厚を乗じたものとする。</p>		項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考	石積(張)	○		○	㎡			裏込材	○		m <sup>3</sup>			胴込コンクリート	○		m <sup>3</sup>			裏込コンクリート	○		m <sup>3</sup>			水抜きパイプ	○		m(本)			吸出し防止材	○		㎡			<p>現行どおり</p> <p><b>1. 適用</b> 玉石及び雑割石(控長25cm～50cm)の積工(勾配1割未満)及び張工(勾配1割以上)であって、胴込・裏込コンクリートは、打設高さが18m以下かつ水平打設距離10m以下の場合に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b> 石積(練石)(複合)、石張(複合)、石積(張)、石積(張)(材料費)、胴込・裏込コンクリート、裏込材(クラッシュラン)の数量を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b> 区分は、石の種類、直高、胴込・裏込コンクリート規格、裏込材規格、構造区分、玉石控、裏込材の有無、胴込・裏込材規格、積張の区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>①石積(練石)(複合)(控長35cmのみに適用)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>石の種類</th> <th>直高</th> <th>胴込・裏込コンクリート規格</th> <th>裏込材規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>石積(練石)(複合)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>石積(張)(材料費)</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 吸出し防止材を全面に設置する場合は、別途考慮する。</p> <p>②石張(複合)(玉石のみに適用)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>構造区分</th> <th>玉石控</th> <th>胴込・裏込コンクリート規格</th> <th>裏込材の有無</th> <th>胴込・裏込材規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>石張(複合)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>石積(張)(材料費)</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 吸出し防止材を全面に設置する場合は、別途考慮する。</p>	項目	区分	石の種類	直高	胴込・裏込コンクリート規格	裏込材規格	単位	数量	備考	石積(練石)(複合)	○	○	○	○	○	m <sup>2</sup>			石積(張)(材料費)	×	×	×	×	×	m <sup>2</sup>			項目	区分	構造区分	玉石控	胴込・裏込コンクリート規格	裏込材の有無	胴込・裏込材規格	単位	数量	備考	石張(複合)	○	○	○	○	○	○	m <sup>2</sup>			石積(張)(材料費)	×	×	×	×	×	×	m <sup>2</sup>			<p>次の頁以降に記載</p>
項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考																																																																																																		
石積(張)	○		○	㎡																																																																																																				
裏込材	○			m <sup>3</sup>																																																																																																				
胴込コンクリート	○			m <sup>3</sup>																																																																																																				
裏込コンクリート	○			m <sup>3</sup>																																																																																																				
水抜きパイプ	○			m(本)																																																																																																				
吸出し防止材	○			㎡																																																																																																				
項目	区分	石の種類	直高	胴込・裏込コンクリート規格	裏込材規格	単位	数量	備考																																																																																																
石積(練石)(複合)	○	○	○	○	○	m <sup>2</sup>																																																																																																		
石積(張)(材料費)	×	×	×	×	×	m <sup>2</sup>																																																																																																		
項目	区分	構造区分	玉石控	胴込・裏込コンクリート規格	裏込材の有無	胴込・裏込材規格	単位	数量	備考																																																																																															
石張(複合)	○	○	○	○	○	○	m <sup>2</sup>																																																																																																	
石積(張)(材料費)	×	×	×	×	×	×	m <sup>2</sup>																																																																																																	
積算上の注意事項		(控え頁)	1/3																																																																																																					

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																			
現 行	改 正	備 考																																																			
	<p>③石積(張)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>積張の区分</th> <th>構造区分</th> <th>石の種類</th> <th>胴込・裏込 コンクリート 規格</th> <th>裏込材 規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>石積(張)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td></td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>石積(張) (材料費)</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td></td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込 コンクリート</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込材 (クラッシュヤ ラン)</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td></td> <td>○</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 吸出し防止材を全面に設置する場合は、別途考慮する。</p> <p>(2) 石の種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>石の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 玉石</li> <li>— 雑割石</li> </ul> <p>(3) 直高による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>直高</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 1.0m以上1.2m以下</li> <li>— 1.2m超え1.4m以下</li> <li>— 1.4m超え1.6m以下</li> <li>— 1.6m超え1.8m以下</li> <li>— 1.8m超え2.0m以下</li> <li>— 2.0m超え2.2m以下</li> <li>— 2.2m超え2.4m以下</li> <li>— 2.4m超え2.6m以下</li> <li>— 2.6m超え2.8m以下</li> <li>— 2.8m超え3.0m以下</li> <li>— 3.0m超え3.3m以下</li> <li>— 3.3m超え3.5m以下</li> <li>— 3.5m超え3.7m以下</li> <li>— 3.7m超え3.9m以下</li> <li>— 3.9m超え4.1m以下</li> <li>— 4.1m超え4.4m以下</li> <li>— 4.4m超え4.7m以下</li> <li>— 4.7m超え5.0m以下</li> </ul>	項目	区分	積張の区分	構造区分	石の種類	胴込・裏込 コンクリート 規格	裏込材 規格	単位	数量	備考	石積(張)	○	○	○	×	×		m <sup>2</sup>			石積(張) (材料費)	×	×	×	×	×		m <sup>2</sup>			胴込・裏込 コンクリート	○	×	×	○			m <sup>3</sup>			裏込材 (クラッシュヤ ラン)	○	×	×	×		○	m <sup>3</sup>				
項目	区分	積張の区分	構造区分	石の種類	胴込・裏込 コンクリート 規格	裏込材 規格	単位	数量	備考																																												
石積(張)	○	○	○	×	×		m <sup>2</sup>																																														
石積(張) (材料費)	×	×	×	×	×		m <sup>2</sup>																																														
胴込・裏込 コンクリート	○	×	×	○			m <sup>3</sup>																																														
裏込材 (クラッシュヤ ラン)	○	×	×	×		○	m <sup>3</sup>																																														
積算上の注意事項			(控え頁) 2/3																																																		



改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																									
現 行	改 正		備 考																								
	<p>(4) 構造区分は、以下のとおりとする。</p> <p>構造区分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>├── 練石</li> <li>└── 空石</li> </ul> <p>(5) 玉石控による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>玉石控</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>├── 25cm 以上 35cm 以下</li> <li>├── 30cm 以上 40cm 以下</li> <li>├── 35cm 以上 45cm 以下</li> <li>├── 40cm 以上 50cm 以下</li> <li>└── 45cm 以上 50cm 以下</li> </ul> <p>(6) 裏込材の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>裏込材の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>├── 有り</li> <li>└── 無し</li> </ul> <p>(7) 積張の区分は、以下のとおりとする。</p> <p>積張の区分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>├── 積工</li> <li>└── 張工</li> </ul> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項目</th> <th style="text-align: center;">単位</th> <th style="text-align: center;">数量</th> <th style="text-align: center;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水抜パイプ (材料)</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>吸出し防止材 (材料)</td> <td style="text-align: center;">m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>吸出し防止材設置工</td> <td style="text-align: center;">m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>全面設置が必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>現場打基礎コンクリート</td> <td style="text-align: center;">m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照</td> </tr> <tr> <td>天端コンクリート</td> <td style="text-align: center;">m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4. 数量算出方法</b> 数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 胴込コンクリート量は、玉石の場合は面積に控長の1/3を、雑割石の場合は1/2を乗じた体積 (m<sup>3</sup>) とする。</p> <p>(2) 裏込コンクリート及び裏込材の量は、面積に必要厚を乗じた体積 (m<sup>3</sup>) とする。</p> <p>(3) 空石張の胴込材の量は、面積に玉石の控長の1/3を乗じた体積 (m<sup>3</sup>) とする。</p> <p>(4) 石積 (張) (材料費) は、石の種類 (玉石、雑割石) ごとに面積 (m<sup>2</sup>) を算出する。</p>	項目	単位	数量	備考	水抜パイプ (材料)	m		必要な場合別途計上	吸出し防止材 (材料)	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上	吸出し防止材設置工	m <sup>2</sup>		全面設置が必要な場合別途計上	現場打基礎コンクリート	m <sup>3</sup>		「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照	天端コンクリート	m <sup>3</sup>		「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照		
項目	単位	数量	備考																								
水抜パイプ (材料)	m		必要な場合別途計上																								
吸出し防止材 (材料)	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上																								
吸出し防止材設置工	m <sup>2</sup>		全面設置が必要な場合別途計上																								
現場打基礎コンクリート	m <sup>3</sup>		「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照																								
天端コンクリート	m <sup>3</sup>		「第1編 (共通編) 5. 4 コンクリートブロック積 (張) 工」参照																								
積算上の注意事項			(控え頁) 3/3																								

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																																																																																																																																
現	行	改	正																																																																																																																																																															
		備	考																																																																																																																																																															
<p><b>6.3 ジオテキスタイル工</b></p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>ジオテキスタイル（ジオグリッド、ジオネット、織布、不織布）を用いた補強土壁工及び盛土補強工に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>壁面材の施工面積及び、ジオテキスタイルの敷設面積区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、材料規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>材料規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>壁面材</td> <td></td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジオテキスタイル</td> <td></td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4. 数量算出方法</b></p> <p>数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 補強土壁の内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>壁面材</td> <td>○</td> <td></td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>注)</td> </tr> <tr> <td>天端コンクリート</td> <td>○</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>天端鉄筋</td> <td>○</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>天端型枠</td> <td>○</td> <td></td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足場</td> <td>○</td> <td></td> <td>掛 m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>暗渠排水管据付</td> <td>○</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フィルター材</td> <td>○</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 壁面材の100m<sup>2</sup>当たり使用量を備考欄に明記する。 2. 壁面材において、鋼製ユニット及び土のう（植生土のう）については直面積、植生マットについては斜面積とする。</p>		項目	区分	材料規格	単位	数量	備考	壁面材		○	m <sup>2</sup>			ジオテキスタイル		○	m <sup>2</sup>			項目	区分	規格	単位	数量	備考	壁面材	○		m <sup>2</sup>		注)	天端コンクリート	○		m <sup>3</sup>			天端鉄筋	○		t			天端型枠	○		m <sup>2</sup>			足場	○		掛 m <sup>2</sup>			暗渠排水管据付	○		m			フィルター材	○		m <sup>3</sup>			<p>現行どおり</p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>ジオテキスタイル（ジオグリッド、ジオネット、織布、不織布）を用いた補強土壁工及び盛土補強工に適用する。 ただし、軟弱地盤における敷設材工法及び盛土の補強工法は適用範囲外とする。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>ジオテキスタイル壁面材組立・設置、ジオテキスタイル壁面材（材料費）、ジオテキスタイル敷設・まき出し・敷均し・締固め、ジオテキスタイル（材料費）の数量を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、規格、壁面材種類とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>壁面材種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ジオテキスタイル壁面材組立・設置</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジオテキスタイル壁面材（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジオテキスタイル敷設・まき出し・敷均し・締固め</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジオテキスタイル（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 壁面材の種類は下表を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">壁面材種類</th> <th colspan="3">規格</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th colspan="3">幅 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">鋼製ユニット</td> <td colspan="3">2,000</td> <td>タイプA</td> </tr> <tr> <td colspan="3">2,000</td> <td>タイプB</td> </tr> <tr> <td colspan="3">1,000</td> <td>タイプC</td> </tr> <tr> <td colspan="3">1,200</td> <td>タイプD</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">土のう (植生土のう含む)</td> <td>長さ (mm)</td> <td>幅 (mm)</td> <td>高さ (mm)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>620</td> <td>480</td> <td>100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>600</td> <td>400</td> <td>100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>400</td> <td>400</td> <td>200</td> <td></td> </tr> <tr> <td>植生マット</td> <td colspan="3">各種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>タイプ別</th> <th>一層当り施工高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タイプA</td> <td>500 mm以下</td> </tr> <tr> <td>タイプB</td> <td>600 mm以下</td> </tr> <tr> <td>タイプC</td> <td>600 mm以下</td> </tr> <tr> <td>タイプD</td> <td>600 mm以下</td> </tr> </tbody> </table>		項目	区分	規格	壁面材種類	単位	数量	備考	ジオテキスタイル壁面材組立・設置		○	○	m <sup>2</sup>			ジオテキスタイル壁面材（材料費）		○	×	m <sup>2</sup>			ジオテキスタイル敷設・まき出し・敷均し・締固め		○	×	m <sup>2</sup>			ジオテキスタイル（材料費）		○	×	m <sup>2</sup>			壁面材種類	規格			備考	幅 (mm)			鋼製ユニット	2,000			タイプA	2,000			タイプB	1,000			タイプC	1,200			タイプD	土のう (植生土のう含む)	長さ (mm)	幅 (mm)	高さ (mm)		620	480	100		600	400	100		400	400	200		植生マット	各種				タイプ別	一層当り施工高さ	タイプA	500 mm以下	タイプB	600 mm以下	タイプC	600 mm以下	タイプD	600 mm以下	
項目	区分	材料規格	単位	数量	備考																																																																																																																																																													
壁面材		○	m <sup>2</sup>																																																																																																																																																															
ジオテキスタイル		○	m <sup>2</sup>																																																																																																																																																															
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																																																																																																													
壁面材	○		m <sup>2</sup>		注)																																																																																																																																																													
天端コンクリート	○		m <sup>3</sup>																																																																																																																																																															
天端鉄筋	○		t																																																																																																																																																															
天端型枠	○		m <sup>2</sup>																																																																																																																																																															
足場	○		掛 m <sup>2</sup>																																																																																																																																																															
暗渠排水管据付	○		m																																																																																																																																																															
フィルター材	○		m <sup>3</sup>																																																																																																																																																															
項目	区分	規格	壁面材種類	単位	数量	備考																																																																																																																																																												
ジオテキスタイル壁面材組立・設置		○	○	m <sup>2</sup>																																																																																																																																																														
ジオテキスタイル壁面材（材料費）		○	×	m <sup>2</sup>																																																																																																																																																														
ジオテキスタイル敷設・まき出し・敷均し・締固め		○	×	m <sup>2</sup>																																																																																																																																																														
ジオテキスタイル（材料費）		○	×	m <sup>2</sup>																																																																																																																																																														
壁面材種類	規格			備考																																																																																																																																																														
	幅 (mm)																																																																																																																																																																	
鋼製ユニット	2,000			タイプA																																																																																																																																																														
	2,000			タイプB																																																																																																																																																														
	1,000			タイプC																																																																																																																																																														
	1,200			タイプD																																																																																																																																																														
土のう (植生土のう含む)	長さ (mm)	幅 (mm)	高さ (mm)																																																																																																																																																															
	620	480	100																																																																																																																																																															
	600	400	100																																																																																																																																																															
	400	400	200																																																																																																																																																															
植生マット	各種																																																																																																																																																																	
タイプ別	一層当り施工高さ																																																																																																																																																																	
タイプA	500 mm以下																																																																																																																																																																	
タイプB	600 mm以下																																																																																																																																																																	
タイプC	600 mm以下																																																																																																																																																																	
タイプD	600 mm以下																																																																																																																																																																	
1-6-5																																																																																																																																																																		
積算上の注意事項			(控え頁) 1/6																																																																																																																																																															

改正理由	現 行	改 正	備 考																																																																
	<p style="text-align: center;"><b>施工パッケージ化に伴う改正</b></p> <div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p>(2) ジオテキスタイルの内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ジオテキスタイル敷設</td> <td>×</td> <td></td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>注) 1</td> </tr> <tr> <td>ジオテキスタイル材料</td> <td>○</td> <td></td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>注) 2</td> </tr> <tr> <td>盛 土 材</td> <td>○</td> <td></td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>注) 3, 4</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. ジオテキスタイル敷設面積の算出にあたっては、「5. 参考図(1)ジオテキスタイル工標準断面図」を使用する。            2. ジオテキスタイル材料面積は、巻き込み部、重ね合わせ等を含んだ、必要面積を算出する。            3. ジオテキスタイル工盛土工範囲の数量を算出する。            4. 盛土材においては、一層当たりの施工高を規格に記載する。</p> <p><b>5. 参考図(標準断面図)</b>            (1) ジオテキスタイル工標準断面図</p>  <p>注) 1. ジオテキスタイルの敷設面積については、次式のとおりとする。  <math display="block">\text{ジオテキスタイル敷設面積} = a_1 + a_2 + a_3 + \dots \quad (\text{m}^2)</math> <math display="block">a_1, a_2, a_3, \dots \text{ ジオテキスタイル工一段当たり敷設面積 (m}^2\text{)}</math>           2. ジオテキスタイル一段当たり敷設面積は、ジオテキスタイル工盛土工範囲における、一段当たりの底面積を算出するものとし、巻き込み面積は含まないものとする。</p>  <p>3. 一段当たりの施工高さは1.5mまでとする。            4. ジオテキスタイル工盛土工範囲以外の普通盛土工については、第1編第2章土工により算出するものとする。</p> </div>	項目	区分	規格	単位	数量	備考	ジオテキスタイル敷設	×		m <sup>2</sup>		注) 1	ジオテキスタイル材料	○		m <sup>2</sup>		注) 2	盛 土 材	○		m <sup>3</sup>		注) 3, 4	<p>2. ジオテキスタイル工1段当たり施工高さは1.5mまでとする。            3. ジオテキスタイル工1段当たりのまき出し、敷均し及び締固め回数に関係なく適用できる。</p> <p>(2) ジオテキスタイル壁面材組立・設置の壁面材種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>壁面材種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 鋼製ユニット</li> <li>— 土のう (植生土のう)</li> <li>— 植生マット</li> <li>— 鋼製ユニット+土のう (植生土のう)</li> </ul> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリートブロック積</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込コンクリート</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込材 (碎石)</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>現場打基礎コンクリート</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>排水管敷設工</td> <td>m</td> <td></td> <td>「第3編(道路編)2.1.1排水構造物工(プレキャスト製品)」参照</td> </tr> <tr> <td>天端コンクリート (壁面上端処理工)</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照</td> </tr> <tr> <td>型枠 (壁面上端処理工)</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>「第1編(共通編)4.2型枠工」参照</td> </tr> <tr> <td>鉄筋工 (壁面上端処理工)</td> <td>t</td> <td></td> <td>「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照</td> </tr> <tr> <td>足場工 (壁面上端処理工)</td> <td>掛m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>「第1編(共通編)11.4足場工」参照</td> </tr> </tbody> </table>	項目	単位	数量	備考	コンクリートブロック積	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上	胴込・裏込コンクリート	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上	胴込・裏込材 (碎石)	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上	現場打基礎コンクリート	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上	排水管敷設工	m		「第3編(道路編)2.1.1排水構造物工(プレキャスト製品)」参照	天端コンクリート (壁面上端処理工)	m <sup>3</sup>		「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照	型枠 (壁面上端処理工)	m <sup>2</sup>		「第1編(共通編)4.2型枠工」参照	鉄筋工 (壁面上端処理工)	t		「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照	足場工 (壁面上端処理工)	掛m <sup>2</sup>		「第1編(共通編)11.4足場工」参照	
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																														
ジオテキスタイル敷設	×		m <sup>2</sup>		注) 1																																																														
ジオテキスタイル材料	○		m <sup>2</sup>		注) 2																																																														
盛 土 材	○		m <sup>3</sup>		注) 3, 4																																																														
項目	単位	数量	備考																																																																
コンクリートブロック積	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上																																																																
胴込・裏込コンクリート	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上																																																																
胴込・裏込材 (碎石)	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上																																																																
現場打基礎コンクリート	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上																																																																
排水管敷設工	m		「第3編(道路編)2.1.1排水構造物工(プレキャスト製品)」参照																																																																
天端コンクリート (壁面上端処理工)	m <sup>3</sup>		「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照																																																																
型枠 (壁面上端処理工)	m <sup>2</sup>		「第1編(共通編)4.2型枠工」参照																																																																
鉄筋工 (壁面上端処理工)	t		「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照																																																																
足場工 (壁面上端処理工)	掛m <sup>2</sup>		「第1編(共通編)11.4足場工」参照																																																																
積算上の注意事項	1-6-6		(控え頁) 2/6																																																																

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																																																							
現 行	改 正		備 考																																																																																						
	<p><b>4. 数量算出方法</b> 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) ジオテキスタイル壁面材組立・設置の施工量は、鋼製ユニット及び土のう（植生土のうを含む）の場合は、直面積（壁高×施工延長）とし、植生マットの場合は斜面積（壁面長×施工延長）とする（（3）図、5. 参考図（2）参照）。</p> <p>(2) ジオテキスタイル壁面材（材料費）は規格ごとに壁面材面積当りの鋼製ユニットの個数（個/m<sup>2</sup>）、土のうの袋数（袋/m<sup>2</sup>）、植生マットの面積（m<sup>2</sup>/m<sup>2</sup>）を算出する（5. 参考図（1）参照）。</p> <p>なお、施工方法別の数量算出項目、及び壁面材の標準使用量は以下である。</p> <p>1) 施工方法別の数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工法 (工法)</th> <th colspan="3">適用</th> <th rowspan="2">ジオテキスタイル 敷設・まき出し・敷均し・締固め</th> <th rowspan="2">標準図</th> </tr> <tr> <th>鋼製 ユニット</th> <th>土のう (植生土のう)</th> <th>植生 マット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋼製ユニット工法</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>5. 参考図（1） 図A</td> </tr> <tr> <td>巻込み工法 (植生土のう)</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>5. 参考図（1） 図B</td> </tr> <tr> <td>巻込み工法 (植生マット)</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>5. 参考図（1） 図C</td> </tr> <tr> <td>鋼製ユニット +植生土のう工法</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>5. 参考図（1） 図D</td> </tr> <tr> <td>巻込み工法 (壁面材なし)</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>5. 参考図（1） 図E</td> </tr> <tr> <td>普通敷設工法 (壁面材なし)</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>5. 参考図（1） 図F</td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 鋼製ユニット標準使用量</p> <p style="text-align: right;">(直面積 100m<sup>2</sup> 当り)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>壁面材種類</th> <th>タイプ</th> <th>一層当り施工高</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>標準図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">鋼製ユニット</td> <td>タイプA</td> <td>500 mm以下</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">個</td> <td>100</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">5. 参考図（1） 図A</td> </tr> <tr> <td>タイプB</td> <td>600 mm以下</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>タイプC</td> <td>600 mm以下</td> <td>167</td> </tr> <tr> <td>タイプD</td> <td>600 mm以下</td> <td>139</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(直面積 1m<sup>2</sup> 当り)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>壁面材種類</th> <th>タイプ</th> <th>一層当り施工高</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>標準図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">鋼製ユニット</td> <td>タイプA</td> <td>500 mm以下</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">個</td> <td>1.00</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">5. 参考図（1） 図A</td> </tr> <tr> <td>タイプB</td> <td>600 mm以下</td> <td>0.83</td> </tr> <tr> <td>タイプC</td> <td>600 mm以下</td> <td>1.67</td> </tr> <tr> <td>タイプD</td> <td>600 mm以下</td> <td>1.39</td> </tr> </tbody> </table>	施工法 (工法)	適用			ジオテキスタイル 敷設・まき出し・敷均し・締固め	標準図	鋼製 ユニット	土のう (植生土のう)	植生 マット	鋼製ユニット工法	○	×	×	○	5. 参考図（1） 図A	巻込み工法 (植生土のう)	×	○	×	○	5. 参考図（1） 図B	巻込み工法 (植生マット)	×	×	○	○	5. 参考図（1） 図C	鋼製ユニット +植生土のう工法	○	○	×	○	5. 参考図（1） 図D	巻込み工法 (壁面材なし)	×	×	×	○	5. 参考図（1） 図E	普通敷設工法 (壁面材なし)	×	×	×	○	5. 参考図（1） 図F	壁面材種類	タイプ	一層当り施工高	単位	数量	標準図	鋼製ユニット	タイプA	500 mm以下	個	100	5. 参考図（1） 図A	タイプB	600 mm以下	83	タイプC	600 mm以下	167	タイプD	600 mm以下	139	壁面材種類	タイプ	一層当り施工高	単位	数量	標準図	鋼製ユニット	タイプA	500 mm以下	個	1.00	5. 参考図（1） 図A	タイプB	600 mm以下	0.83	タイプC	600 mm以下	1.67	タイプD	600 mm以下	1.39	
施工法 (工法)	適用			ジオテキスタイル 敷設・まき出し・敷均し・締固め	標準図																																																																																				
	鋼製 ユニット	土のう (植生土のう)	植生 マット																																																																																						
鋼製ユニット工法	○	×	×	○	5. 参考図（1） 図A																																																																																				
巻込み工法 (植生土のう)	×	○	×	○	5. 参考図（1） 図B																																																																																				
巻込み工法 (植生マット)	×	×	○	○	5. 参考図（1） 図C																																																																																				
鋼製ユニット +植生土のう工法	○	○	×	○	5. 参考図（1） 図D																																																																																				
巻込み工法 (壁面材なし)	×	×	×	○	5. 参考図（1） 図E																																																																																				
普通敷設工法 (壁面材なし)	×	×	×	○	5. 参考図（1） 図F																																																																																				
壁面材種類	タイプ	一層当り施工高	単位	数量	標準図																																																																																				
鋼製ユニット	タイプA	500 mm以下	個	100	5. 参考図（1） 図A																																																																																				
	タイプB	600 mm以下		83																																																																																					
	タイプC	600 mm以下		167																																																																																					
	タイプD	600 mm以下		139																																																																																					
壁面材種類	タイプ	一層当り施工高	単位	数量	標準図																																																																																				
鋼製ユニット	タイプA	500 mm以下	個	1.00	5. 参考図（1） 図A																																																																																				
	タイプB	600 mm以下		0.83																																																																																					
	タイプC	600 mm以下		1.67																																																																																					
	タイプD	600 mm以下		1.39																																																																																					
積算上の注意事項			(控え頁) 3/6																																																																																						

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																
現 行	改 正		備 考																																															
	<p>3) 土のう (植生土のう) 標準使用量 (直面積 100m<sup>2</sup> 当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>壁面材種類</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>標準図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">土のう (植生土のう)</td> <td>長 620 × 幅 480 × 高 100</td> <td rowspan="3">袋</td> <td>2200</td> <td rowspan="3">5. 参考図 (1) 図 B</td> </tr> <tr> <td>長 600 × 幅 400 × 高 100</td> <td>2500</td> </tr> <tr> <td>長 400 × 幅 400 × 高 200</td> <td>1250</td> </tr> </tbody> </table> <p>(直面積 1m<sup>2</sup> 当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>壁面材種類</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>標準図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">土のう (植生土のう)</td> <td>長 620 × 幅 480 × 高 100</td> <td rowspan="3">袋</td> <td>22</td> <td rowspan="3">5. 参考図 (1) 図 B</td> </tr> <tr> <td>長 600 × 幅 400 × 高 100</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>長 400 × 幅 400 × 高 200</td> <td>12.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>4) 植生マット標準使用量 (斜面積 100m<sup>2</sup> 当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>壁面材種類</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>標準図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>植生マット</td> <td>各 種</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td>100</td> <td>5. 参考図 (1) 図 C</td> </tr> </tbody> </table> <p>(斜面積 1m<sup>2</sup> 当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>壁面材種類</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>標準図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>植生マット</td> <td>各 種</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td>1.00</td> <td>5. 参考図 (1) 図 C</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) ジオテキスタイル敷設・まき出し・敷均し・締固めの施工量は、ジオテキスタイル敷設面積を計上し、算出については下図及び次式の通りとする。</p> <p>ジオテキスタイル敷設面積 = <math>a_1 + a_2 + a_3 + \dots</math> (m<sup>2</sup>)  <math>a_1, a_2, a_3 \dots</math> ジオテキスタイル工一段当たり敷設面積 (m<sup>2</sup>)</p> <p>ジオテキスタイル一段当たり敷設面積は、ジオテキスタイル工盛土工範囲における、一段当たりの底面積を算出するものとし、巻き込み面積は含まないものとする。</p> <p>(4) ジオテキスタイル工盛土工範囲以外の普通盛土工については、「第1編(共通編)2.1土工」により算出するものとする。</p>	壁面材種類	規 格	単 位	数 量	標準図	土のう (植生土のう)	長 620 × 幅 480 × 高 100	袋	2200	5. 参考図 (1) 図 B	長 600 × 幅 400 × 高 100	2500	長 400 × 幅 400 × 高 200	1250	壁面材種類	規 格	単 位	数 量	標準図	土のう (植生土のう)	長 620 × 幅 480 × 高 100	袋	22	5. 参考図 (1) 図 B	長 600 × 幅 400 × 高 100	25	長 400 × 幅 400 × 高 200	12.5	壁面材種類	規 格	単 位	数 量	標準図	植生マット	各 種	m <sup>2</sup>	100	5. 参考図 (1) 図 C	壁面材種類	規 格	単 位	数 量	標準図	植生マット	各 種	m <sup>2</sup>	1.00	5. 参考図 (1) 図 C	
壁面材種類	規 格	単 位	数 量	標準図																																														
土のう (植生土のう)	長 620 × 幅 480 × 高 100	袋	2200	5. 参考図 (1) 図 B																																														
	長 600 × 幅 400 × 高 100		2500																																															
	長 400 × 幅 400 × 高 200		1250																																															
壁面材種類	規 格	単 位	数 量	標準図																																														
土のう (植生土のう)	長 620 × 幅 480 × 高 100	袋	22	5. 参考図 (1) 図 B																																														
	長 600 × 幅 400 × 高 100		25																																															
	長 400 × 幅 400 × 高 200		12.5																																															
壁面材種類	規 格	単 位	数 量	標準図																																														
植生マット	各 種	m <sup>2</sup>	100	5. 参考図 (1) 図 C																																														
壁面材種類	規 格	単 位	数 量	標準図																																														
植生マット	各 種	m <sup>2</sup>	1.00	5. 参考図 (1) 図 C																																														
積算上の注意事項			(控え頁) 4/6																																															

改 正 理 由	施 工 パッケージ 化 に 伴 う 改 正	改 正 現 行	備 考
	現 行	改 正	
	<div style="border: 2px solid red; width: 350px; height: 100px; margin-bottom: 10px;"></div> <div style="border: 2px solid red; width: 100px; height: 20px; margin-bottom: 10px; display: inline-block; padding: 2px;">(2) 施工法別参考図</div> <p style="text-align: center;">1-6-7</p>	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>(5) ジオテキスタイル（材料費）は、巻込み部、重ね合わせ等を含んだジオテキスタイル必要面積（m<sup>2</sup>）を規格ごとに算出する。</li> <li>(6) 盛土材においては、一層当たりの施工高を規格に記載する。</li> <li>(7) コンクリートブロック積が必要な場合は別途考慮する。</li> <li>(8) ジオテキスタイル盛土工範囲の盛土材については別途考慮する（参考図（1）参照）。</li> </ul> </div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>5. 参考図（標準断面図）</b></p> <p>(1) 施工法別参考図</p> </div> <div style="margin-top: 20px; text-align: center;"> <p>現行どおり</p> </div>	
積算上の注意事項			(控え頁) 5/6

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	
現 行	改 正	備 考	
<div data-bbox="181 419 958 938" style="border: 2px solid red; width: 100%; height: 100%;"></div>	<p>(2) 施工数量標準図</p> <div data-bbox="1077 395 1827 932" style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p>図① 鋼製ユニット施工数量標準図 h:一層当り施工高さ0.5m又は10.6m</p> <p>図② 土のう施工数量標準図 h:一層当り施工高さ0.5m</p> <p>図③ 植生マット施工数量標準図 h:一層当り標準長</p> </div>		
積算上の注意事項			(控え頁) 6/6

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																	
現	行	改	正																
<p><b>6.4.2 場所打擁壁工(2)</b></p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>場所打擁壁工(1)の適用範囲を越えるもの又は、場所打擁壁工(1)に含まれない構造のもの</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>コンクリート、鉄筋、均しコンクリート、型枠、基礎材、足場等々について各とりまとめにより数量を算出する。但し、擁壁本体コンクリート打設後に打設する付属物(擁壁天端に施工する壁高欄等)については、コンクリートを本体数量と区分して計上する。</p> <p>注) 1. コンクリート(擁壁本体コンクリート)については、「第1編(共通編)6.4.1場所打擁壁工(1)」によるものとする。          2. 鉄筋工については、「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」によるものとする。          3. 均しコンクリート、ペーラインコンクリート及び擁壁本体コンクリート打設後に行う付属物等のコンクリートについては、「第1編(共通編)4.1コンクリート工」によるものとする。          4. 型枠については、「第1編(共通編)4.2型枠工」によるものとする。          5. 基礎材については、「第1編(共通編)9.1砕石基礎工」によるものとする。          6. 足場については、「第1編(共通編)11.4足場工」によるものとする。          7. 裏込材については、「第1編(共通編)5.4コンクリートブロック積(張)工」によるものとする。          8. 吸出し防止材については、別途算出する。          9. 水抜パイプについては、別途算出するものとする。          10. 目地材については、別途算出するものとする。</p>		<p>現行どおり</p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>場所打擁壁工(1)の適用範囲を外れた擁壁工のコンクリート打設に適用する。</p> <p>参考(場所打擁壁工(1)の適用範囲を外れた擁壁工)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重力式擁壁[擁壁平均高さ5mを超えるもの]</li> <li>・もたれ式擁壁[擁壁平均高さ1mを超え3m未満のもの、或いは8mを超えるもの]</li> <li>・逆T型擁壁[擁壁平均高さ1mを超え3m未満のもの、或いは10mを超えるもの]</li> <li>・L型擁壁[擁壁平均高さ1mを超え3m未満のもの、或いは7mを超えるもの]</li> <li>・重力式擁壁、もたれ式擁壁、逆T型擁壁、L型擁壁以外の形式の現場打擁壁</li> </ul> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>コンクリート(場所打擁壁)の数量を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、規格、生コンクリート規格、養生工の種類、圧送管延長距離区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>規 格</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>養生工の種類</th> <th>圧送管延長距離区分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>項目 コンクリート (場所打擁壁)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) コンクリート(場所打擁壁)の養生工の種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>養生工の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 一般養生</li> <li>— 特殊養生(練炭・ジェットヒータ)</li> <li>— 仮囲い内ジェットヒータ養生</li> </ul> <p>(3) コンクリート(場所打擁壁)の圧送管延長距離区分は、以下のとおりとする。</p> <p>圧送管延長距離区分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 延長無し</li> <li>— 90m未満</li> <li>— 90m以上180m未満</li> <li>— 180m以上280m以下</li> </ul> <p>注) 圧送管延長距離区分は、作業範囲(30m)を超えて圧送管を延長する場合に、超えた部分の延長距離を該当する区分から選択する。</p>		区 分	規 格	生コンクリート規格	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単 位	数 量	備 考	項目 コンクリート (場所打擁壁)	○	○	○	○	m <sup>3</sup>		
区 分	規 格	生コンクリート規格	養生工の種類	圧送管延長距離区分	単 位	数 量	備 考												
項目 コンクリート (場所打擁壁)	○	○	○	○	m <sup>3</sup>														
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																



改正理由	施工パッケージ化に伴う改正		改正 現行																																									
現 行	改 正			備 考																																								
	<p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">項目</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数量</th> <th style="width: 40%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ペーラインコンクリート (材料費)</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 4. 1 コンクリート工」参照</td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 4. 2 型枠工」参照</td> </tr> <tr> <td>足場工</td> <td>掛m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>「第1編 (共通編) 1 1. 4 足場工」参照</td> </tr> <tr> <td>基礎材</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>t</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>水抜パイプ</td> <td>m</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>吸出し防止材</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>目地板</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4. 数量算出方法</b>            数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配あるいは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断する。</p>			項目	単位	数量	備考	ペーラインコンクリート (材料費)	m <sup>3</sup>		「第1編 (共通編) 4. 1 コンクリート工」参照	型枠	m <sup>2</sup>		「第1編 (共通編) 4. 2 型枠工」参照	足場工	掛m <sup>2</sup>		「第1編 (共通編) 1 1. 4 足場工」参照	基礎材	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上	均しコンクリート	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上	鉄筋工	t		必要な場合別途計上	水抜パイプ	m		必要な場合別途計上	吸出し防止材	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上	目地板	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上	
項目	単位	数量	備考																																									
ペーラインコンクリート (材料費)	m <sup>3</sup>		「第1編 (共通編) 4. 1 コンクリート工」参照																																									
型枠	m <sup>2</sup>		「第1編 (共通編) 4. 2 型枠工」参照																																									
足場工	掛m <sup>2</sup>		「第1編 (共通編) 1 1. 4 足場工」参照																																									
基礎材	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上																																									
均しコンクリート	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上																																									
鉄筋工	t		必要な場合別途計上																																									
水抜パイプ	m		必要な場合別途計上																																									
吸出し防止材	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上																																									
目地板	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上																																									
積算上の注意事項				(控え頁) 2/2																																								

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																
現 行	改 正	備 考																
<p><b>7.1.2 函渠工(2)</b></p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>函渠工(1)の適用を外れた函渠工に適用する。</p> <p>函渠工(1)の適用を外れた函渠工 河川工事で施工する函渠 ・樋門・樋管(函渠(門柱等含む)、翼壁、水叩)、ボックス形式の水路等 道路工事で施工する函渠 ・ボックスカルバート以外の函渠 ・1層または1層2連以外の函渠 ・土被りが9mを超える函渠 ・7.1.1函渠工(1)の適用を外れる函渠</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>函渠本体コンクリート(ウイング、段落ち防止用枕を含む)、型枠(化粧型枠)、鉄筋、足場、支保等々について各とりまとめにより数量を算出する。</p> <p>注) 1. コンクリート(函渠本体コンクリート)については、「7.1.1函渠工(1)」によるものとする。 2. 型枠については、「第1編(共通編)4.2型枠工」によるものとする。 3. 鉄筋については、「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」によるものとする。 4. 足場については、「第1編(共通編)11.4足場工」によるものとする。 5. 支保については、「第1編(共通編)11.5支保工」によるものとする。 6. 基礎砕石については、「第1編(共通編)9.1砕石基礎工」によるものとする。 7. 均しコンクリートについては、「第1編(共通編)4.1コンクリート工」によるものとする。 8. 目地・止水板については別途考慮するものとする。 9. 冬期の施工で雪寒仮囲いが必要な場合については、「第1編(共通編)11.6.2雪寒仮囲い工」によるものとする。</p>	<p>現行どおり</p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>函渠工(1)の適用範囲を外れた函渠工コンクリート打設に適用する。</p> <p>参考(函渠工(1)の適用範囲を外れた函渠工) 河川工事で施工する函渠 ・樋門・樋管(函渠(門柱等含む)、翼壁、水叩)、ボックス形式の水路等 道路工事で施工する函渠 ・ボックスカルバート以外の函渠 ・1層又は1層2連以外の函渠 ・土被りが9mを超える函渠 ・「第1編(共通編)7.1.1函渠工(1)」の適用範囲を外れる函渠(下図参照)</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>コンクリート(場所打函渠)の体積を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、規格、生コンクリート規格、養生工の種類、圧送管延長距離区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分 項 目</th> <th>規 格</th> <th>生コンクリート 規格</th> <th>養生工の 種類</th> <th>圧送管延長 距離区分</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート (場所打函渠)</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分 項 目	規 格	生コンクリート 規格	養生工の 種類	圧送管延長 距離区分	単 位	数 量	備 考	コンクリート (場所打函渠)	○	○	○	○	m <sup>3</sup>			<p>(控え頁)</p> <p style="text-align: center;">1/2</p>
区 分 項 目	規 格	生コンクリート 規格	養生工の 種類	圧送管延長 距離区分	単 位	数 量	備 考											
コンクリート (場所打函渠)	○	○	○	○	m <sup>3</sup>													
積算上の注意事項	1-7-3																	

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																													
現 行	改 正		備 考																																												
	<p>(2) コンクリート（場所打函渠）の養生工の種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>養生工の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 一般養生</li> <li>— 特殊養生（練炭・ジェットヒータ）</li> <li>— 仮囲い内ジェットヒータ養生</li> </ul> <p>(3) コンクリート（場所打函渠）の圧送管延長距離区分は、以下のとおりとする。</p> <p>圧送管延長距離区分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 延長無し</li> <li>— 110m未満</li> <li>— 110m以上 220m未満</li> <li>— 220m以上 340m以下</li> </ul> <p>注）圧送管延長距離区分は、作業範囲（30m）を超えて圧送管を延長する場合に、超えた部分の延長距離を該当する区分から選択する。</p> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>型枠</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>「第1編（共通編）4. 2型枠工」参照</td> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>t</td> <td></td> <td>「第1編（共通編）4. 3. 1鉄筋工」参照</td> </tr> <tr> <td>足場工</td> <td>掛m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>「第1編（共通編）11. 4足場工」参照</td> </tr> <tr> <td>支保工</td> <td>空m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>「第1編（共通編）11. 5支保工」参照</td> </tr> <tr> <td>基礎材</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>水抜パイプ</td> <td>m</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>吸出し防止材</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>目地板</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>止水板</td> <td>m</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4. 数量算出方法</b> 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) コンクリート（場所打函渠）の数量は、ウイング、段落ち防止用枕を含む本体コンクリートの数量とする。</p>	項目	単位	数量	備考	型枠	m <sup>2</sup>		「第1編（共通編）4. 2型枠工」参照	鉄筋工	t		「第1編（共通編）4. 3. 1鉄筋工」参照	足場工	掛m <sup>2</sup>		「第1編（共通編）11. 4足場工」参照	支保工	空m <sup>3</sup>		「第1編（共通編）11. 5支保工」参照	基礎材	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上	均しコンクリート	m <sup>3</sup>			水抜パイプ	m		必要な場合別途計上	吸出し防止材	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上	目地板	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上	止水板	m		必要な場合別途計上		
項目	単位	数量	備考																																												
型枠	m <sup>2</sup>		「第1編（共通編）4. 2型枠工」参照																																												
鉄筋工	t		「第1編（共通編）4. 3. 1鉄筋工」参照																																												
足場工	掛m <sup>2</sup>		「第1編（共通編）11. 4足場工」参照																																												
支保工	空m <sup>3</sup>		「第1編（共通編）11. 5支保工」参照																																												
基礎材	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上																																												
均しコンクリート	m <sup>3</sup>																																														
水抜パイプ	m		必要な場合別途計上																																												
吸出し防止材	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上																																												
目地板	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上																																												
止水板	m		必要な場合別途計上																																												
積算上の注意事項			（控え頁） 2/2																																												

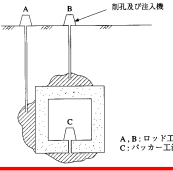
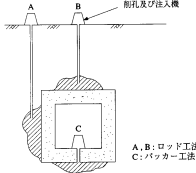
改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																					
現 行	改 正		備 考																																				
<p><b>4.2 堤防天端補修工</b></p> <p>1. 適用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">河川堤防の管理用通路における堤防天端補修に適用する。</div> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">堤防天端補修の面積を区分ごとに算出する。</div> <p><b>3. 区分</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">区分は、規格、作業内容とする。</div> <p>(1) 数量算出項目区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>作業内容</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堤防天端補修</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">㎡</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分 堤防天端補修の面積を補修材の規格ごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 作業内容区分 堤防天端補修の面積を作業内容ごとに以下の区分して算出する。 作業内容 — 不陸整正+締固め                   — 不陸整正+補修材敷均し+締固め</p> <p>(4) 補修材 補修材は必要に応じて算出するものとし、規格の種類毎に必要な厚さ (cm) を算出する。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; margin-top: 10px;"></div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">2-4-4</p>				項目	区分	規格	作業内容	単位	数量	備考	堤防天端補修		○	○	㎡			<p style="text-align: center;">} 現行どおり</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">不陸整正・締固めの面積を区分ごとに算出する。</div> <p><b>3. 区分</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">区分は、補修材敷均しの有無、補修材の種類、補修材平均厚さとする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>補修材敷均しの有無</th> <th>補修材の種類</th> <th>補修材平均厚さ</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不陸整正・締固め</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">㎡</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 不陸整正・締固めの補修材敷均しの有無による区分は、以下のとおりとする。 補修材敷均しの有無 — 無し                                   — 有り</p> <p>(3) 不陸整正・締固めの補修材平均厚さによる区分は、以下のとおりとする。 補修材平均厚さ — 25mm 未満                           — 25mm 以上 75mm 未満                           — 75mm 以上 125mm 未満                           — 125mm 以上 175mm 未満                           — 175mm 以上 225mm 未満                           — 225mm 以上 275mm 未満                           — 275mm 以上 325mm 未満</p> <p><b>4. 数量算出方法</b> 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。</p>				項目	区分	補修材敷均しの有無	補修材の種類	補修材平均厚さ	単位	数量	備考	不陸整正・締固め		○	○	○	㎡				
項目	区分	規格	作業内容	単位	数量	備考																																	
堤防天端補修		○	○	㎡																																			
項目	区分	補修材敷均しの有無	補修材の種類	補修材平均厚さ	単位	数量	備考																																
不陸整正・締固め		○	○	○	㎡																																		
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																				

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																	
現 行	改 正		備 考																																																
<p><b>4.3 堤防芝養生工</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>1. 適用</b></p> <p>河川堤防及び高水敷等の芝育成を目的とした芝養生工のうち、施肥工、抜根工、集草・積込運搬に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>堤防芝養生の面積を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、規格、作業内容とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>作業内容</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施 肥</td> <td>×</td> <td></td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>抜 根 除 草</td> <td>○</td> <td></td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 作業内容区分            抜根の作業内容を以下の区分ごとに算出する。なお運搬が必要な場合は、運搬経路に応じて運搬距離を算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業内容 — 抜根+集草+積込運搬</li> <li>          — 抜根+集草</li> <li>          — 抜根のみ</li> <li>          — 集草のみ</li> <li>          — 積込運搬のみ</li> </ul> <p><b>4. 数量算出方法</b></p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 肥料は、施肥する芝の10,000 m<sup>2</sup>当たり使用量の質量(kg)を算出する。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>1. 適用</b></p> <p>主に芝の繁茂している河川堤防及び高水敷等において、芝育成を目的とした芝養生工のうち、施肥工、抜根工、集草・積込運搬に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>抜根、施肥の面積を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、作業区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>作業区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伐 根</td> <td>○</td> <td></td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施 肥</td> <td>×</td> <td></td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 危険物、空き缶、流木、石等の除去は、塵芥処理等で別途考慮する。            2. 積込運搬は、運搬距離15km(片道)以下に適用し、15km(片道)を超える場合は別途考慮する。            3. 化学肥料の散布量が300~1,000kg/10,000m<sup>2</sup>の場合に適用し、これにより難い場合については別途考慮する。</p> <p>(2) 伐根の作業区分は、以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伐根 — 抜根+集草+積込運搬</li> <li>      — 抜根+集草</li> <li>      — 抜根のみ</li> <li>      — 集草のみ</li> <li>      — 積込運搬のみ</li> </ul> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>処分費</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>塵芥処理工</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>「第2編（河川・砂防編）4.5 塵芥処理工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4. 数量算出方法</b></p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。</p> </div> </div>				項目	区分	作業内容	単位	数量	備考	施 肥	×		m <sup>2</sup>			抜 根 除 草	○		m <sup>2</sup>			項目	区分	作業区分	単位	数量	備考	伐 根	○		m <sup>2</sup>			施 肥	×		m <sup>2</sup>			項目	単位	数量	備考	処分費	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上	塵芥処理工	m <sup>2</sup>		「第2編（河川・砂防編）4.5 塵芥処理工」参照
項目	区分	作業内容	単位	数量	備考																																														
施 肥	×		m <sup>2</sup>																																																
抜 根 除 草	○		m <sup>2</sup>																																																
項目	区分	作業区分	単位	数量	備考																																														
伐 根	○		m <sup>2</sup>																																																
施 肥	×		m <sup>2</sup>																																																
項目	単位	数量	備考																																																
処分費	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上																																																
塵芥処理工	m <sup>2</sup>		「第2編（河川・砂防編）4.5 塵芥処理工」参照																																																
積算上の注意事項			(控え頁) 1/1																																																

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																																						
現 行	改 正	備 考																																																																						
<p><b>4.4 伐木除根工</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p><b>1. 適用</b></p> <p>河川堤防、高水敷又は中州等に繁茂する樹木の伐木又は竹の伐竹を行う伐木除根工のうち、伐木又は伐竹、除根、整地、集積、現場外搬出に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>施工面積を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、作業内容とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>作業内容</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伐 木</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>㎡</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>伐 竹</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>㎡</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 作業内容区分 各項目（伐木、伐竹）の作業内容は、各項目ごとに除根・整地・集積・運搬作業の有無を各々区分して算出する。</p> <p>(3) 規格 伐木の規格は現場条件を下記の区分により算出する。 現場条件 <input type="checkbox"/> 粗 <input type="checkbox"/> 密</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・粗とは、概ね50（本/100㎡）未満とする。</li> <li>・密とは、概ね50（本/100㎡）以上とする。</li> </ul> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>河川堤防、高水敷又は中州等に繁茂している樹木の伐木又は竹の伐竹を行う伐木除根工のうち、伐木又は伐竹、除根、整地、集積、現場内小運搬、積込み、現場外搬出に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>伐木・伐竹（伐木除根）、除根（伐木除根）、整地（伐木除根）、集積積込み（機械施工）（伐木除根）、集積（人力施工）（伐木除根）、積込み（人力施工）（伐木除根）、運搬（伐木除根）、伐木・伐竹（複合）の面積を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、樹木・竹の区分 樹木密集度、除根作業の有無、積込条件、DID区間の有無、運搬距離、集積積込み作業の区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>①伐木・伐竹（伐木除根）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>樹木・竹の区分 樹木密集度</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伐木・伐竹 （伐木除根）</td> <td>○</td> <td></td> <td>㎡</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>除根 （伐木除根）</td> <td>×</td> <td></td> <td>㎡</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>整地 （伐木除根）</td> <td>×</td> <td></td> <td>㎡</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注）1. 刈草及び伐木・伐竹の集積は含まない。 2. 除根した根の集積は含まない。</p> <p>②集積積込み（機械施工）（伐木除根）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>除根作業の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>集積積込み （機械施工） （伐木除根）</td> <td></td> <td>○</td> <td>㎡</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>③集積積込み（人力施工）（伐木除根）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>集積 （人力施工） （伐木除根）</td> <td>㎡</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>積込み （人力施工） （伐木除根）</td> <td>㎡</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注）現場外搬出時の積込作業は含まない。</p> </div> </div>				項目	区分	作業内容	規格	単位	数量	備考	伐 木	○	○	㎡				伐 竹	○	×	㎡				項目	区分	樹木・竹の区分 樹木密集度	単位	数量	備考	伐木・伐竹 （伐木除根）	○		㎡			除根 （伐木除根）	×		㎡			整地 （伐木除根）	×		㎡			項目	区分	除根作業の有無	単位	数量	備考	集積積込み （機械施工） （伐木除根）		○	㎡			項目	単位	数量	備考	集積 （人力施工） （伐木除根）	㎡			積込み （人力施工） （伐木除根）	㎡		
項目	区分	作業内容	規格	単位	数量	備考																																																																		
伐 木	○	○	㎡																																																																					
伐 竹	○	×	㎡																																																																					
項目	区分	樹木・竹の区分 樹木密集度	単位	数量	備考																																																																			
伐木・伐竹 （伐木除根）	○		㎡																																																																					
除根 （伐木除根）	×		㎡																																																																					
整地 （伐木除根）	×		㎡																																																																					
項目	区分	除根作業の有無	単位	数量	備考																																																																			
集積積込み （機械施工） （伐木除根）		○	㎡																																																																					
項目	単位	数量	備考																																																																					
集積 （人力施工） （伐木除根）	㎡																																																																							
積込み （人力施工） （伐木除根）	㎡																																																																							
積算上の注意事項	2-4-6	(控え頁) 1/2																																																																						

工 種	伐木除根工
-----	-------

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																											
現 行	改 正		備 考																																										
	<p>④運搬（伐木除根）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>積込条件</th> <th>除根作業の有無</th> <th>DID区間の有無</th> <th>運搬距離</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>運搬 (伐木除根)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>㎡</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>⑤伐木・伐竹（複合）（伐木、除根、整地、集積積込みまでの一連の作業を含む）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>樹木・竹の区分 樹木集中度</th> <th>除根作業の有無</th> <th>集積積込み作 業の区分</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伐木・伐竹 (複合)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>㎡</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 樹木・竹の区分 樹木集中度による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>樹木・竹の区分 樹木集中度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 伐木（粗）（50本/100㎡未満）</li> <li>— 伐木（密）（50本/100㎡以上）</li> <li>— 伐竹</li> </ul> <p>(3) 除根作業の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>除根作業の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 有り</li> <li>— 無し</li> </ul> <p>(4) 積込条件による区分は、以下のとおりとする。 （除根作業が必要（有り）な場合は、機械施工となる）</p> <p>積込条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 人力施工</li> <li>— 機械施工</li> </ul> <p>(5) 除根作業の有無による区分は、以下のとおりとする。 （積込条件が機械施工の場合のみ）</p> <p>除根作業の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 有り</li> <li>— 無し</li> </ul> <p>(6) DID区間の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>DID 区間の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 無し</li> <li>— 有り</li> </ul> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>処分費</td> <td>㎡</td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4. 数量算出方法</b></p> <p>数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 除根（伐木除根）、整地（伐木除根）、集積積込み（機械施工）（伐木除根）、集積（人力施工）（伐木除根）、積込み（人力施工）（伐木除根）の対象面積は、伐木、伐竹（伐木除根）面積と同面積とする。</p> <p>(2) 運搬（伐木除根）の運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は平均値とし、自動車専用道路を利用する場合には別途考慮する。</p>	項目	区分	積込条件	除根作業の有無	DID区間の有無	運搬距離	単位	数量	備考	運搬 (伐木除根)		○	○	○	○	㎡			項目	区分	樹木・竹の区分 樹木集中度	除根作業の有無	集積積込み作 業の区分	単位	数量	備考	伐木・伐竹 (複合)		○	○	○	㎡			項目	単位	数量	備考	処分費	㎡		必要な場合別途計上		
項目	区分	積込条件	除根作業の有無	DID区間の有無	運搬距離	単位	数量	備考																																					
運搬 (伐木除根)		○	○	○	○	㎡																																							
項目	区分	樹木・竹の区分 樹木集中度	除根作業の有無	集積積込み作 業の区分	単位	数量	備考																																						
伐木・伐竹 (複合)		○	○	○	㎡																																								
項目	単位	数量	備考																																										
処分費	㎡		必要な場合別途計上																																										
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2																																										

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	備考																																																																														
<p><b>4.6 ボーリンググラウト工</b></p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>河川構造物（樋管・樋門・水門・堤防等）周辺の止水、空洞充填等を目的にセメント・ペントナイト等を注入するボーリンググラウト工に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>孔の数、注入材量を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、削孔工法、土質、削孔長とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>削孔工法</th> <th>土質</th> <th>削孔長</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">孔 数</td> <td>ロッド</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>バッカー</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注 入 材 量</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 削孔工法は、土を削孔するロッド工法、コンクリート床版を削孔するバッカー工法とする。</p> <p>(2) 土質区分 土質による区分は、以下の通りとする。</p> <p>土質 — 粘性土、砂質土           レキ質土</p> <p>(3) 削孔長区分 孔数を削孔長ごとに区分して算出する。</p> <p>(4) 規格 注入材料の規格はその配合を1m<sup>3</sup>当りで算出する。</p> <p><b>4. 参考図（施工法）</b></p> 	項目	区分	削孔工法	土質	削孔長	規格	単位	数量	備考	孔 数	ロッド	○	○	×	孔				バッカー	×	○	×	孔				注 入 材 量		×	×	○	m <sup>3</sup>				<p>現行どおり</p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>注入設備2セット施工により、河川構造物（樋管・樋門・水門・堤防等）周辺の止水、空洞充填等を目的にセメントペントナイトを注入するボーリンググラウト工に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>削孔、注入、注入設備据付・解体の数量を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、削孔工法、削孔長、土質係数（α）、注入工1m<sup>3</sup>当り注入日数（S）、注入材料の配合、セメントの種類とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>削孔工法</th> <th>削孔長</th> <th>土質係数（α）</th> <th>注入工1m<sup>3</sup>当り注入日数（S）</th> <th>注入材料の配合</th> <th>セメントの種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削孔</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入設備据付・解体</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>回</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 工法による区分は、以下を参考とする。</p>  <p>2. 削孔径はロッド工法がφ46mm、バッカー工法がφ52mm（2インチ）を標準とする。 3. 注入設備2セット分の回数とする。</p> <p>(2) 削孔工法による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>削孔工法 — ロッド工法               バッカー工法</p>	項目	区分	削孔工法	削孔長	土質係数（α）	注入工1m <sup>3</sup> 当り注入日数（S）	注入材料の配合	セメントの種類	単位	数量	備考	削孔		○	○	○	×	×	×	孔			注入		○	×	×	○	○	○	m <sup>3</sup>			注入設備据付・解体		×	×	×	×	×	×	回			
項目	区分	削孔工法	土質	削孔長	規格	単位	数量	備考																																																																									
孔 数	ロッド	○	○	×	孔																																																																												
	バッカー	×	○	×	孔																																																																												
注 入 材 量		×	×	○	m <sup>3</sup>																																																																												
項目	区分	削孔工法	削孔長	土質係数（α）	注入工1m <sup>3</sup> 当り注入日数（S）	注入材料の配合	セメントの種類	単位	数量	備考																																																																							
削孔		○	○	○	×	×	×	孔																																																																									
注入		○	×	×	○	○	○	m <sup>3</sup>																																																																									
注入設備据付・解体		×	×	×	×	×	×	回																																																																									
積算上の注意事項			(控え頁) 1/5																																																																														



改正理由	施工パッケージ化に伴う改正		改正 —— 現行	
現 行	改 正			備 考
	<p>(3) 削孔長による区分は、以下のとおりとする。 (削孔工法がロッド工法の場合)</p> <p>削孔長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 1.0m 以上 2.0m 未満</li> <li>— 2.0m 以上 3.0m 未満</li> <li>— 3.0m 以上 4.0m 未満</li> <li>— 4.0m 以上 5.0m 未満</li> <li>— 5.0m 以上 6.0m 未満</li> <li>— 6.0m 以上 7.0m 未満</li> <li>— 7.0m 以上 8.0m 未満</li> <li>— 8.0m 以上 9.0m 未満</li> <li>— 9.0m 以上 10.0m 未満</li> <li>— 10.0m 以上 11.0m 未満</li> <li>— 11.0m 以上 12.0m 未満</li> <li>— 12.0m 以上 13.0m 未満</li> <li>— 13.0m 以上 14.0m 未満</li> <li>— 14.0m 以上 15.0m 未満</li> <li>— 15.0m 以上 16.0m 未満</li> </ul> <p>(4) 削孔長による区分は、以下のとおりとする。 (削孔工法がバッカー工法の場合)</p> <p>削孔長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 0.2m 未満</li> <li>— 0.2m 以上 0.4m 未満</li> <li>— 0.4m 以上 0.6m 未満</li> <li>— 0.6m 以上 0.8m 未満</li> <li>— 0.8m 以上 1.0m 未満</li> <li>— 1.0m 以上 1.2m 未満</li> <li>— 1.2m 以上 1.4m 未満</li> <li>— 1.4m 以上 1.6m 未満</li> <li>— 1.6m 以上 1.8m 未満</li> <li>— 1.8m 以上 2.0m 未満</li> </ul>			
積算上の注意事項				(控え頁) 2/5

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正		改正 現行	
	現 行	改 正		備 考
		<p>(5) 土質係数 (<math>\alpha</math>) による区分は、以下のとおりとする。 (工法がロッド工法の場合)</p> <p>土質係数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 1.0</li> <li>— 1.1</li> <li>— 1.2</li> <li>— 1.3</li> <li>— 1.4</li> <li>— 1.5</li> <li>— 1.6</li> <li>— 1.7</li> <li>— 1.8</li> </ul>		
積算上の注意事項				(控え頁) 3/5

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																																																						
現 行	改 正	備 考																																																																																						
	<p>(6) 注入工 1 m<sup>3</sup> 当り注入日数 (S) による区分は、以下のとおりとする。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">積算条件</th> <th style="text-align: left;">区分</th> <th style="text-align: left;">参考 (注入日数から換算した 1分間当り注入量)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>注入工 1 m<sup>3</sup> 当り注入日数 (S)</td><td>0.10 日</td><td>(11.7~12.0ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.11 日</td><td>(10.7~11.6ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.12 日 (標準)</td><td>(9.9~10.6ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.13 日</td><td>(9.1~9.8ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.14 日</td><td>(8.5~9.0ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.15 日</td><td>(8.0~8.4ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.16 日</td><td>(7.5~7.9ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.17 日</td><td>(7.1~7.4ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.18 日</td><td>(6.7~7.0ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.19 日</td><td>(6.3~6.6ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.20 日</td><td>(6.0~6.2ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.21 日</td><td>(5.7~5.9ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.22 日</td><td>(5.5~5.6ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.23 日</td><td>(5.3~5.4ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.24 日</td><td>(5.1~5.2ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.25 日</td><td>(4.9~5.0ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.26 日</td><td>(4.7~4.8ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.27 日</td><td>(4.5~4.6ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.28 日</td><td>(4.3~4.4ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.29 日</td><td>(4.2ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.30 日</td><td>(4.1ℓ/min)</td></tr> <tr><td></td><td>0.31 日</td><td>(4.0ℓ/min)</td></tr> </tbody> </table> <p>(7) 注入材料の配合による区分は、以下のとおりとする。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%;">注入材料の配合</td> <td>軟練り配合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中練り配合 1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中練り配合 2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>各種配合</td> </tr> </table> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場工</td> <td>掛m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>「第1編(共通編)11.4足場工」参照</td> </tr> </tbody> </table>	積算条件	区分	参考 (注入日数から換算した 1分間当り注入量)	注入工 1 m <sup>3</sup> 当り注入日数 (S)	0.10 日	(11.7~12.0ℓ/min)		0.11 日	(10.7~11.6ℓ/min)		0.12 日 (標準)	(9.9~10.6ℓ/min)		0.13 日	(9.1~9.8ℓ/min)		0.14 日	(8.5~9.0ℓ/min)		0.15 日	(8.0~8.4ℓ/min)		0.16 日	(7.5~7.9ℓ/min)		0.17 日	(7.1~7.4ℓ/min)		0.18 日	(6.7~7.0ℓ/min)		0.19 日	(6.3~6.6ℓ/min)		0.20 日	(6.0~6.2ℓ/min)		0.21 日	(5.7~5.9ℓ/min)		0.22 日	(5.5~5.6ℓ/min)		0.23 日	(5.3~5.4ℓ/min)		0.24 日	(5.1~5.2ℓ/min)		0.25 日	(4.9~5.0ℓ/min)		0.26 日	(4.7~4.8ℓ/min)		0.27 日	(4.5~4.6ℓ/min)		0.28 日	(4.3~4.4ℓ/min)		0.29 日	(4.2ℓ/min)		0.30 日	(4.1ℓ/min)		0.31 日	(4.0ℓ/min)	注入材料の配合	軟練り配合		中練り配合 1		中練り配合 2		各種配合	項目	単位	数量	備考	足場工	掛m <sup>2</sup>		「第1編(共通編)11.4足場工」参照		
積算条件	区分	参考 (注入日数から換算した 1分間当り注入量)																																																																																						
注入工 1 m <sup>3</sup> 当り注入日数 (S)	0.10 日	(11.7~12.0ℓ/min)																																																																																						
	0.11 日	(10.7~11.6ℓ/min)																																																																																						
	0.12 日 (標準)	(9.9~10.6ℓ/min)																																																																																						
	0.13 日	(9.1~9.8ℓ/min)																																																																																						
	0.14 日	(8.5~9.0ℓ/min)																																																																																						
	0.15 日	(8.0~8.4ℓ/min)																																																																																						
	0.16 日	(7.5~7.9ℓ/min)																																																																																						
	0.17 日	(7.1~7.4ℓ/min)																																																																																						
	0.18 日	(6.7~7.0ℓ/min)																																																																																						
	0.19 日	(6.3~6.6ℓ/min)																																																																																						
	0.20 日	(6.0~6.2ℓ/min)																																																																																						
	0.21 日	(5.7~5.9ℓ/min)																																																																																						
	0.22 日	(5.5~5.6ℓ/min)																																																																																						
	0.23 日	(5.3~5.4ℓ/min)																																																																																						
	0.24 日	(5.1~5.2ℓ/min)																																																																																						
	0.25 日	(4.9~5.0ℓ/min)																																																																																						
	0.26 日	(4.7~4.8ℓ/min)																																																																																						
	0.27 日	(4.5~4.6ℓ/min)																																																																																						
	0.28 日	(4.3~4.4ℓ/min)																																																																																						
	0.29 日	(4.2ℓ/min)																																																																																						
	0.30 日	(4.1ℓ/min)																																																																																						
	0.31 日	(4.0ℓ/min)																																																																																						
注入材料の配合	軟練り配合																																																																																							
	中練り配合 1																																																																																							
	中練り配合 2																																																																																							
	各種配合																																																																																							
項目	単位	数量	備考																																																																																					
足場工	掛m <sup>2</sup>		「第1編(共通編)11.4足場工」参照																																																																																					
積算上の注意事項			(控え頁) 4/5																																																																																					

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																																								
現 行	改 正		備 考																																																																							
	<p><b>4. 数量算出方法</b> 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 土質係数(α)は、掘削する土質毎の係数を下記のとおり加重平均して算出する。 αは小数第2位を四捨五入し小数第1位とする。</p> $\alpha = \frac{\alpha 1 \times L1 + \alpha 2 \times L2}{L1 + L2}$ <p>ここで、α1：砂質土及び粘性土の土質係数(=1.0) α2：レキ質土の土質係数(=2.5) L1：砂質土及び粘性土の総削孔長(m) L2：レキ質土の総削孔長(m)</p> <p>(2) 標準の注入工1m<sup>3</sup>当り注入日数(S)は、0.12日(1分間当り注入量を0.01m<sup>3</sup>/min)とするが、1分間当り注入量を試験注入等により、決定する場合は次式により算出する。 Sは小数第3位を四捨五入し小数第2位とする。 <math>S = 1 / (408 \times q \times 2)</math> ここで、q：1分間当り注入量(m<sup>3</sup>/min) (100/min = 0.01m<sup>3</sup>/min)</p> <p>(3) 注入材料(セメントベントナイト)の配合は、以下を標準とする。</p> <p>1) 軟練り配合</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><th></th><th>セメント</th><th>ベントナイト</th><th>水</th><th>アルミ粉</th><th>繊維材</th></tr> <tr><td>質量比</td><td>1</td><td>0.3</td><td>2.3</td><td>1/5000</td><td>—</td></tr> <tr><td>1m<sup>3</sup>当り</td><td>366kg</td><td>110kg</td><td>841kg</td><td>74g</td><td>—</td></tr> </table> <p style="text-align: right;">(フロー値25~30秒)</p> <p>2) 中練り配合1</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><th>配合1</th><th>セメント</th><th>ベントナイト</th><th>水</th><th>アルミ粉</th><th>繊維材</th></tr> <tr><td>質量比</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td><td>1/5000</td><td>0.05</td></tr> <tr><td>1m<sup>3</sup>当り</td><td>208kg</td><td>208kg</td><td>832kg</td><td>42g</td><td>10.4kg</td></tr> </table> <p style="text-align: right;">(スランプ23cm)</p> <p>3) 中練り配合2</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><th>配合2</th><th>セメント</th><th>ベントナイト</th><th>水</th><th>アルミ粉</th><th>繊維材</th></tr> <tr><td>質量比</td><td>1</td><td>1</td><td>3.5</td><td>1/5000</td><td>—</td></tr> <tr><td>1m<sup>3</sup>当り</td><td>238kg</td><td>238kg</td><td>832kg</td><td>48g</td><td>—</td></tr> </table> <p style="text-align: right;">(スランプ23cm)</p> <p>(4) 注入材料の配合を標準の配合以外とする場合には、配合1m<sup>3</sup>当りの各種材料の規格及び使用量を以下を参考に算出する。</p> <p style="text-align: center;">注入材料1m<sup>3</sup>当り配合</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><th>材 料 名</th><th>規 格</th><th>数 量 単 位</th></tr> <tr><td>セメント</td><td>高炉B 25kg袋入</td><td>kg</td></tr> <tr><td>ベントナイト</td><td>25kg/袋 200メッシュ</td><td>kg</td></tr> <tr><td>水</td><td></td><td>kg</td></tr> <tr><td>アルミ粉</td><td>起泡剤 アルミ粉</td><td>g</td></tr> <tr><td>繊維材</td><td></td><td>kg</td></tr> </table>		セメント	ベントナイト	水	アルミ粉	繊維材	質量比	1	0.3	2.3	1/5000	—	1m <sup>3</sup> 当り	366kg	110kg	841kg	74g	—	配合1	セメント	ベントナイト	水	アルミ粉	繊維材	質量比	1	1	4	1/5000	0.05	1m <sup>3</sup> 当り	208kg	208kg	832kg	42g	10.4kg	配合2	セメント	ベントナイト	水	アルミ粉	繊維材	質量比	1	1	3.5	1/5000	—	1m <sup>3</sup> 当り	238kg	238kg	832kg	48g	—	材 料 名	規 格	数 量 単 位	セメント	高炉B 25kg袋入	kg	ベントナイト	25kg/袋 200メッシュ	kg	水		kg	アルミ粉	起泡剤 アルミ粉	g	繊維材		kg	
	セメント	ベントナイト	水	アルミ粉	繊維材																																																																					
質量比	1	0.3	2.3	1/5000	—																																																																					
1m <sup>3</sup> 当り	366kg	110kg	841kg	74g	—																																																																					
配合1	セメント	ベントナイト	水	アルミ粉	繊維材																																																																					
質量比	1	1	4	1/5000	0.05																																																																					
1m <sup>3</sup> 当り	208kg	208kg	832kg	42g	10.4kg																																																																					
配合2	セメント	ベントナイト	水	アルミ粉	繊維材																																																																					
質量比	1	1	3.5	1/5000	—																																																																					
1m <sup>3</sup> 当り	238kg	238kg	832kg	48g	—																																																																					
材 料 名	規 格	数 量 単 位																																																																								
セメント	高炉B 25kg袋入	kg																																																																								
ベントナイト	25kg/袋 200メッシュ	kg																																																																								
水		kg																																																																								
アルミ粉	起泡剤 アルミ粉	g																																																																								
繊維材		kg																																																																								
積算上の注意事項			(控え頁) 5/5																																																																							

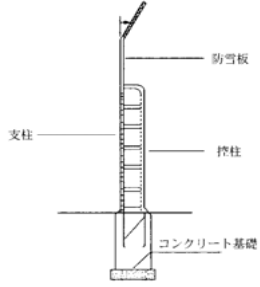
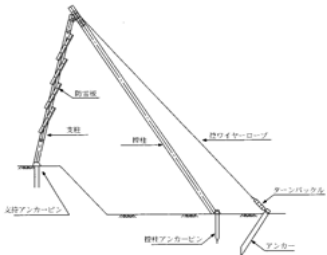
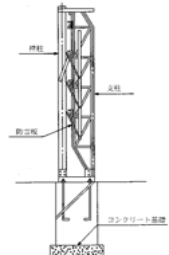
改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	備考																																																																																																				
	現 行	改 正																																																																																																					
	<p><b>6.2 集排水ボーリング工</b></p> <p><b>1. 適用</b> 地表及び集水井内において、集排水ボーリング工を施工するものに適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b> 削孔、保孔管加工挿入、ボーリング仮設機材を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b> 区分は、呼び径、土質、保孔管、施工場所、削孔長とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>呼び径</th> <th>土 質</th> <th>保孔管</th> <th>施 工 所</th> <th>削孔長</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削 孔</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>保孔管加工挿入</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ボーリング仮設機材</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>式</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 呼び径区分 呼び径（ドリルパイプ外径）による区分は、以下のとおりとする。 呼び径 — φ 90mm           — φ 115mm           — φ 135mm</p> <p>(3) 土質区分 土質による区分は、以下のとおりとする。 土 質 — 粘性土及び砂質土           — レキ質土           — 岩塊・玉石           — 軟岩</p> <p>(4) 保孔管区分 保孔管による区分は、以下のとおりとする。 管 種 : V P, S G P 管 径 : (V P) 40, 50, 65, 75, その他           (S G P) 40A, 50A, 65A, 80A, 90A, その他 管加工 : ストレーナ加工の有無</p> <p>(5) 施工場所区分 施工場所による区分は、以下のとおりとする。 施工場所 — 地表               — 集水井</p>	項目	区 分	呼び径	土 質	保孔管	施 工 所	削孔長	単 位	数 量	備 考	削 孔	○	○	×	○	○	m				保孔管加工挿入	×	×	○	○	×	m				ボーリング仮設機材	×	×	×	×	×	式				<p style="text-align: center;">} 現行どおり</p> <p><b>1. 適用</b> 地表及び集水井内において、ロータリーパーカッション式ボーリングマシン（二重管方式）にて集排水ボーリング工を施工するものであり、呼び径90～135 mm、削孔長80m以下、削孔角度は水平±10 度以内の作業に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b> ボーリング、保孔管、ボーリング仮設機材、足場（地表）の数量を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b> 区分は、施工場所、土質区分、呼び径、削孔長区分、保孔管種別、ストレーナ加工の有無、保孔管種類とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>施工場所</th> <th>土質区分</th> <th>呼び径</th> <th>削孔長区分</th> <th>保孔管種別</th> <th>ストレーナ加工の有無</th> <th>保孔管種類</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボーリング</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>保孔管</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ボーリング仮設機材</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>回</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足場（地表）</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>空m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 呼び径とは、ドリルパイプ外径(mm)をいう。 2. 同一足場上の移動はボーリングを含む。 3. 作業足場の幅は4.5mとする。</p> <p>(2) 施工場所による区分は、以下のとおりとする。 ①ボーリング、保孔管、ボーリング仮設機材の場合 施工場所 — 地表               — 集水井内  ②足場（地表）の場合 施工場所 — 平地               — 傾斜地</p>	項目	区 分	施工場所	土質区分	呼び径	削孔長区分	保孔管種別	ストレーナ加工の有無	保孔管種類	単 位	数 量	備 考	ボーリング	○	○	○	○	×	×	×	m				保孔管	○	×	×	×	○	○	○	m				ボーリング仮設機材	○	×	×	×	×	×	×	回				足場（地表）	○	×	×	×	×	×	×	空m <sup>3</sup>				
項目	区 分	呼び径	土 質	保孔管	施 工 所	削孔長	単 位	数 量	備 考																																																																																														
削 孔	○	○	×	○	○	m																																																																																																	
保孔管加工挿入	×	×	○	○	×	m																																																																																																	
ボーリング仮設機材	×	×	×	×	×	式																																																																																																	
項目	区 分	施工場所	土質区分	呼び径	削孔長区分	保孔管種別	ストレーナ加工の有無	保孔管種類	単 位	数 量	備 考																																																																																												
ボーリング	○	○	○	○	×	×	×	m																																																																																															
保孔管	○	×	×	×	○	○	○	m																																																																																															
ボーリング仮設機材	○	×	×	×	×	×	×	回																																																																																															
足場（地表）	○	×	×	×	×	×	×	空m <sup>3</sup>																																																																																															
積算上の注意事項	2-6-4		(控え頁) 1/2																																																																																																				

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	備考																		
	現 行	改 正																			
	<p>(6) 削孔長区分 削孔長による区分は、以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">削孔長 — 50m/本以下           — 50m/本を超え 80m/本以下           — 80m/本を超える</p> <p><b>4. 数量算出方法</b> 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) ボーリング仮設機材の内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 10%;">区分</th> <th style="width: 10%;">施工</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数量</th> <th style="width: 10%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械据付</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">回</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足場（地表）</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">空m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 機械据付の施工区分は、地表と集水井に区分して算出する。</p> <p>(3) 足場（地表）の作業面の幅は4.5mとして算出する。</p> <p>(4) 足場（地表）の施工区分は、平地と傾斜地に区分して算出する。</p>	項目	区分	施工	単位	数量	備考	機械据付		○	回			足場（地表）		○	空m <sup>3</sup>			<p>(3) 土質区分による区分は、以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">土質区分 — 粘性土・砂質土               — レキ質土               — 岩塊・玉石               — 軟岩</p> <p>(4) 呼び径による区分は、以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">呼び径 — φ90mm           — φ115mm           — φ135mm</p> <p>(5) 削孔長区分は、以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">削孔長区分 — 50m/本以下               — 50m/本を超え 80m/本以下               — 80m/本を超える</p> <p>(6) 保孔管種別による区分は、以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">保孔管種別 — VP               — SGP</p> <p style="margin-left: 20px;">注) 保孔管はVP管（JISK6741）を標準とするが、活動中の地すべり地区で、挿入後剪断、よじれ等により保孔管破損のおそれのある場合はSGP管とする。</p> <p>(7) ストレーナ加工の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">ストレーナ加工の有無 — VP — 有り                               — SGP — 有り   — 無し</p> <p>(8) 保孔管種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">管 種 : VP, SGP 管 径 : (VP) 40, 50, 65, 75, その他（各種）           (SGP) 40A, 50A, 65A, 80A, 90A, その他（各種）</p> <p><b>4. 数量算出方法</b> 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 削孔する土質が異なる場合は、土質ごとに延長を算出する。</p> <p>(2) 施工場所は、施工機械の配置位置を示す。</p>	
項目	区分	施工	単位	数量	備考																
機械据付		○	回																		
足場（地表）		○	空m <sup>3</sup>																		
積算上の注意事項	2-6-5		(控え頁) 2/2																		

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行												
現 行	改 正	備 考												
<p><b>2.2.4 防雪柵設置工</b></p> <p>1. 適用</p> <p>防雪柵の設置及び撤去に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>施工延長を区分ごとに算出する。</p> <p>3. 区分</p> <p>区分は、種類とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防雪柵</td> <td></td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 種類 種類は以下の区分に分類して算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>種類       <ul style="list-style-type: none"> <li>吹溜式（仮設式）           <ul style="list-style-type: none"> <li>柵高（3.5 m以下）</li> <li>柵高（3.5 mを超え 6.0 m以下）</li> </ul> </li> <li>吹溜式（固定式）           <ul style="list-style-type: none"> <li>柵高（5.0 m以下）</li> </ul> </li> <li>吹払式（仮設式）           <ul style="list-style-type: none"> <li>柵高（4.0 m以下）</li> </ul> </li> <li>吹払式（固定式）           <ul style="list-style-type: none"> <li>柵高（4.0 m以下）</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>(3) 材料は別途、種類毎に算出する。</p> <p><b>4. 参考図（防雪柵の概念図）</b></p> <p>(1) 吹溜式防雪柵（仮設式）</p> <p style="text-align: center;">3-2-12</p>	項目	区分	種類	単位	数量	備考	防雪柵		○	m			<p><b>2.2.4 防雪柵設置・撤去工</b></p> <p>1. 適用</p> <p>防雪柵の設置及び撤去に適用する。</p> <p>2. 数量算出項目</p> <p>防雪柵、防雪柵（材料費）の延長を区分ごとに算出する。</p> <p>→ 次の頁に記載</p> <p><b>5. 参考図（防雪柵の概念図）</b></p> <p>現行どおり</p>	
項目	区分	種類	単位	数量	備考									
防雪柵		○	m											
積算上の注意事項			(控え頁) 1/3											

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																														
現 行	改 正	備 考																														
<div style="border: 2px solid red; width: 100%; height: 100%;"></div>	<div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、規格、作業区分、形式、取付方式、柵高とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" data-bbox="1137 533 1805 641"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>区 分</th> <th>規格</th> <th>作業区分</th> <th>形式</th> <th>取付方式</th> <th>柵高</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防雪柵</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防雪柵 (材料費)</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 防雪柵の作業区分は、以下のとおりとする。</p> <pre> 作業区分 ├── 設置 └── 撤去     </pre> <p>(3) 防雪柵の形式による区分は、以下のとおりとする。</p> <pre> 形式 ├── 吹溜式 └── 吹払式     </pre> <p>(4) 防雪柵の取付方式による区分は、以下のとおりとする。</p> <pre> 取付方式 ├── 仮設式(支柱+張立柱) │   ├── 仮設式(張立柱のみ) │   └── 固定式(支柱+張立柱) └── 固定式(張立柱のみ)     </pre> <p>(5) 防雪柵の柵高による区分は、以下のとおりとする。</p> <pre> 柵高 ├── 3.5m 以下材 (吹溜式 仮設式) │   ├── 3.5m 超え 6.0m 以下 (吹溜式 仮設式) │   └── 5.0m 以下 (吹溜式 固定式) └── 4.0m 以下 (吹払式 仮設・固定式)     </pre> <p><b>4. 数量算出方法</b></p> <p>数量算出は、「第1編 (共通編) 1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 防雪柵 (材料費) は、規格ごとに延長 (m) を算出する。</p> </div>	項 目	区 分	規格	作業区分	形式	取付方式	柵高	単位	数量	備考	防雪柵		○	○	○	○	○	m			防雪柵 (材料費)		○	×	×	×	×	m			
項 目	区 分	規格	作業区分	形式	取付方式	柵高	単位	数量	備考																							
防雪柵		○	○	○	○	○	m																									
防雪柵 (材料費)		○	×	×	×	×	m																									
積算上の注意事項			(控え頁) 2/3																													

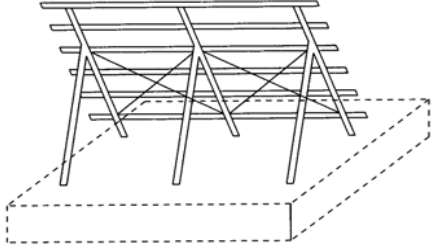
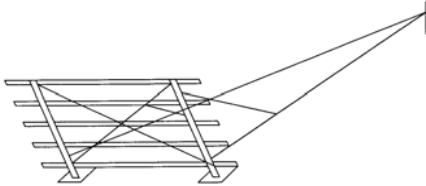
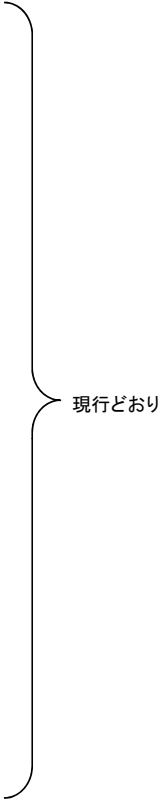


改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	
現 行	改 正	備 考	
<p>(2) 吹溜式防雪柵 (固定式)</p>  <p>(3) 吹払式防雪柵 (仮設式)</p>  <p>(4) 吹払式防雪柵 (固定式)</p>  <p>3-2-13</p>	<p>現行どおり</p>		
積算上の注意事項			(控え頁) 3/3

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																																																									
現 行	改 正	備 考																																																																																									
<p><b>2. 2. 5 雪崩発生予防柵設置工</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>1. 適用</b></p> <p>固定基礎を有する固定柵及び固定アンカーを有しワイヤで柵を吊っている吊柵の雪崩発生予防柵に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>雪崩発生予防柵の基数、アンカー本数を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>雪崩発生予防柵</td> <td></td> <td>○</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吊柵アンカー</td> <td></td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4. 数量算出方法</b></p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 予防柵</p> <p>雪崩発生予防柵は以下の区分で算出する。</p> <p>種 類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 固定柵</li> <li>— 吊 柵</li> </ul> <p>吊柵アンカー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— パイプアンカー φ 114.3mm L=2.0 ~ 3.0m</li> <li>— 樹脂アンカー φ 32mm L=1.7m</li> <li>— 樹脂アンカー φ 36mm L=1.7m</li> </ul> <p>持上範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 0 m以上 1.5 m未満</li> <li>— 1.5 m以上 2.0 m未満</li> <li>— 2.0 m以上 2.5 m未満</li> <li>— 2.5 m以上 4.5 m以下</li> </ul> <p>持上範囲は、トラッククレーンの場合は機械設置地盤からの最大持上げ高さまでの直高とし、簡易ケーブルクレーンの場合は資材仮置面から最大持上げ高さまでの直高とする。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">} 現行どおり</p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>雪崩発生予防柵設置工に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>雪崩発生予防柵、雪崩発生予防柵（材料費）、吊柵アンカー、パイプアンカー（材料費）、樹脂アンカー（材料費）、簡易ケーブルクレーン（1 t 吊）設置・撤去の数量を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、柵種類、クレーン機種、持上範囲、吊柵アンカー規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>柵種類</th> <th>クレーン機種</th> <th>持上範囲</th> <th>吊柵アンカー規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>雪崩発生予防柵</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>雪崩発生予防柵（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吊柵アンカー</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>パイプアンカー（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>樹脂アンカー（材料費）</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>簡易ケーブルクレーン（1 t 吊）設置・撤去</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 雪崩発生予防柵の柵種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>柵種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 固定柵</li> <li>— 吊柵</li> </ul> <p>(3) 雪崩発生予防柵のクレーン機種による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>クレーン機種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— トラッククレーン</li> <li>— ラフテレーンクレーン</li> <li>— 簡易ケーブルクレーン</li> </ul> </div> </div>				項目	区分	規格	単位	数量	備考	雪崩発生予防柵		○	基			吊柵アンカー		○	本			項目	区分	規格	柵種類	クレーン機種	持上範囲	吊柵アンカー規格	単位	数量	備考	雪崩発生予防柵		○	○	○	○	×	基			雪崩発生予防柵（材料費）		○	×	×	×	×	基			吊柵アンカー		○	×	×	×	○	本			パイプアンカー（材料費）		○	×	×	×	×	本			樹脂アンカー（材料費）		○	×	×	×	×	本			簡易ケーブルクレーン（1 t 吊）設置・撤去		×	×	×	×	×	基		
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																																						
雪崩発生予防柵		○	基																																																																																								
吊柵アンカー		○	本																																																																																								
項目	区分	規格	柵種類	クレーン機種	持上範囲	吊柵アンカー規格	単位	数量	備考																																																																																		
雪崩発生予防柵		○	○	○	○	×	基																																																																																				
雪崩発生予防柵（材料費）		○	×	×	×	×	基																																																																																				
吊柵アンカー		○	×	×	×	○	本																																																																																				
パイプアンカー（材料費）		○	×	×	×	×	本																																																																																				
樹脂アンカー（材料費）		○	×	×	×	×	本																																																																																				
簡易ケーブルクレーン（1 t 吊）設置・撤去		×	×	×	×	×	基																																																																																				
積算上の注意事項			(控え頁) 1/3																																																																																								

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																									
現 行	改 正	備 考																									
	<p>(4) 雪崩予防柵の持上範囲による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>持上範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 15m 未満</li> <li>— 15m 以上 20m 未満</li> <li>— 20m 以上 45m 以下</li> <li>— 130m 以下</li> </ul> <p>(5) 吊柵アンカーの吊柵アンカー規格による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>吊柵アンカー規格</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— パイプアンカー</li> <li>— 樹脂アンカー</li> </ul> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土工 (固定基礎工事)</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>コンクリート (固定基礎工事)</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>型枠 (固定基礎工事)</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>足場工 (固定基礎工事・法面作業等)</td> <td>掛m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>基礎材 (固定基礎工事)</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4. 数量算出方法</b>            数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 雪崩予防柵（材料費）は、規格ごとに基数を算出する。</p> <p>(2) パイプアンカー（材料費）又は樹脂アンカー（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。</p> <p>(3) 持上範囲は、トラッククレーン及びびラフテレーンクレーンの場合は機械設置地盤からの最大持上げ高までの直高とし、簡易ケーブルクレーンの場合は資材仮置面から最大持上げ高までの直高とする。</p> <p>(4) 簡易ケーブルクレーンの設置基数は、現場条件又は、布設箇所への現場内小運搬等を考慮して決定する。</p>	項目	単位	数量	備考	土工 (固定基礎工事)	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上	コンクリート (固定基礎工事)	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上	型枠 (固定基礎工事)	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上	足場工 (固定基礎工事・法面作業等)	掛m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上	基礎材 (固定基礎工事)	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上		
項目	単位	数量	備考																								
土工 (固定基礎工事)	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上																								
コンクリート (固定基礎工事)	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上																								
型枠 (固定基礎工事)	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上																								
足場工 (固定基礎工事・法面作業等)	掛m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上																								
基礎材 (固定基礎工事)	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上																								
積算上の注意事項			(控え頁) 2/3																								

工 種	雪崩発生予防柵設置工
-----	------------

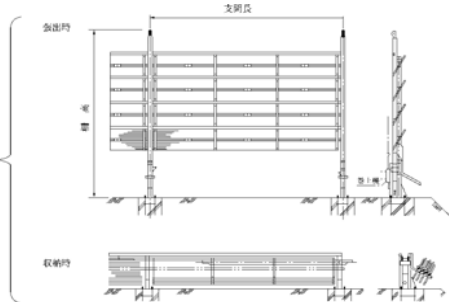
改正理由	施工パッケージ化に伴う改正		改正 現行	
現 行	改 正			備 考
<p>5. 参考図（雪崩発生予防柵設置工の種類）</p> <p>雪崩発生予防柵の種類は下図のとおりである。</p> <p>1) 固定柵 — 固定基礎を有する柵</p>  <p>2) 吊柵 — 固定アンカーを有しワイヤ等で柵を吊っているもの</p>  <p>3-2-15</p>				
積算上の注意事項				(控え頁) 3/3



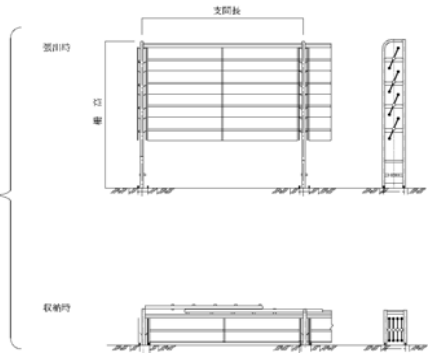
改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	
現	行	改	正
	現	行	備 考
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2

4. 参考図

連動型  
防雪板全数を同  
時に張出し・収納  
するタイプ



単動型  
防雪板を一枚ご  
とに張出し・収納  
するタイプ



3-2-17

5. 参考図

現行どおり



改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																															
現 行	改 正	備 考																															
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>3.12 路肩整正工</b></p> <p><b>1. 適用</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">道路維持における路肩整正作業に適用する。</div> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">路肩整正の面積を算出する。</div> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>路 肩 整 正</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">} 現行どおり</p> <p><b>1. 適用</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">道路維持作業における路肩整正（人力による土はね、厚さ10 cmまで、幅1.0mまで）作業に適用する。</div> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">路肩整正（人力による土はね）の面積を区分ごとに算出する。</div> <p><b>3. 区分</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">区分は、DID区間の有無、運搬距離とする。</div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">数 量</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>DID区間の有無</th> <th>運搬距離</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>路肩整正 (人力による土はね)</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small;">注) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なるときは、平均値とする。</p> <p>(2) 路肩整正（人力による土はね）の DID 区間の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <div style="margin-left: 20px;"> DID 区間の有無    — 無し                            └ 有り </div> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>残土処分費</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4. 数量算出方法</b></p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 残土は、5m<sup>3</sup>/100m<sup>2</sup>とする。</p> </div> </div>				項目	単位	数量	備考	路 肩 整 正	m <sup>2</sup>			項目	区 分		単位	数 量	備 考	DID区間の有無	運搬距離	路肩整正 (人力による土はね)	○	○	m <sup>2</sup>			項目	単位	数量	備考	残土処分費	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上
項目	単位	数量	備考																														
路 肩 整 正	m <sup>2</sup>																																
項目	区 分		単位	数 量	備 考																												
	DID区間の有無	運搬距離																															
路肩整正 (人力による土はね)	○	○	m <sup>2</sup>																														
項目	単位	数量	備考																														
残土処分費	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上																														
積算上の注意事項	3-3-18	(控え頁) 1/1																															



改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現 行

改 正

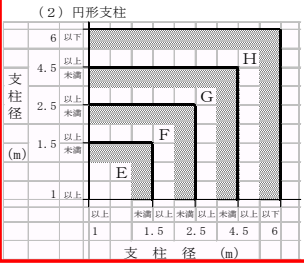
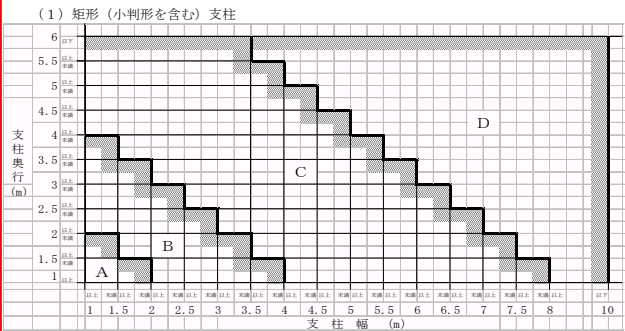
備 考

**3.21 橋梁補強工**

**3.21.1(1) 橋梁補強工(鋼板巻立て)(合理化)**

**1. 適用**

下記に示す支柱の形状区分におけるRC橋脚（既設の鉄筋コンクリート橋脚）の補強に鋼板巻立て工を行う場合に適用する。  
ただし、鋼板取付工の注入材がエポキシ樹脂又は無収縮モルタルの場合に限り、梁の補強には適用しない。



**2. 数量算出項目**

鋼板巻立て、現場溶接、フーチングアンカー削孔・定着の数量とする。

3-3-39

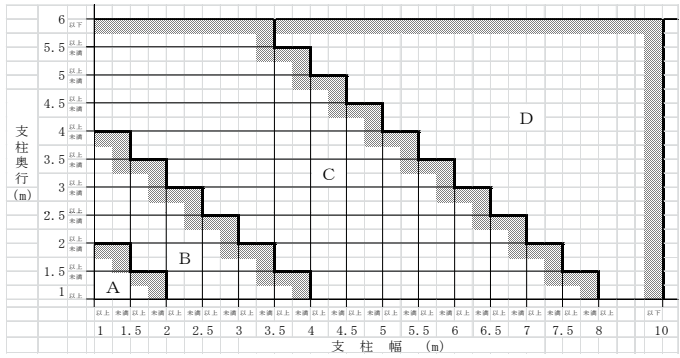
現行どおり

**3.21.1(1) 橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)**

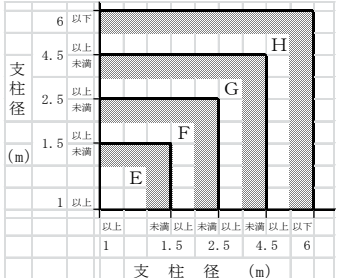
**1. 適用**

RC橋脚（既設の鉄筋コンクリート橋脚）の補強に鋼板巻立てを行う場合に適用する。

適用できる範囲  
 ・矩形（小判形を含む）支柱の幅及び奥行は以下を標準としており、支柱区分を下図より選択する。（支柱幅および奥行は補強前の支柱寸法とする。）



・円形支柱の径は以下を標準としており、支柱区分を下図より選択する。（支柱径は補強前の支柱寸法とする。）



・足場は枠組足場とし、手摺先行型とする。

次の頁に記載

積算上の注意事項

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	
------	---------------	----------	--

現	行	改	正	備	考
---	---	---	---	---	---

**3. 区分**

区分は、作業区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項 目	区 分	規格・仕様	単 位	数 量	備 考
鋼 板 巻 立 て	鋼板の鋼材質量	×	t		
	スタッドジベル	×	本		
	支柱区分	×	m		
	鋼板取付	×	m <sup>2</sup>		
	シール材	○	kg		
	注入材	○	kg		
現 場 溶 接		○	m		
フーチング/アンカー 削孔・定着	アンカー筋	○	本		

**4. 数量算出方法**

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 鋼板巻立て

- 鋼板の鋼材質量  
鋼材質量は、「第3編（道路編）4章鋼橋上部工 4. 1 鋼材」を参照の上、算出するものとする。
- 鋼板取付  
鋼板取付の面積は、鋼板取付面積とする。
- シール材  
シール材はエポキシ系樹脂とし、注入量は縁部、パイプ周りについて下式により算出する。なお、注入量は鋼板取付1.0 m<sup>2</sup>当り数量とする。  
注入量=シール断面積×シール延長×単位質量(1700 kg/m<sup>3</sup>)
- 注入材  
注入材はエポキシ系樹脂又は無収縮モルタルとし、鋼板取付1.0 m<sup>2</sup>当り注入量は、下式により算出する。
  - エポキシ系樹脂の場合  
注入量(kg/10m<sup>2</sup>) = (鋼板取付面積(10 m<sup>2</sup>) × 注入厚(5mm) ÷ 裏当て鋼板体積) × 単位体積質量(1200 kg/m<sup>3</sup>)
  - 無収縮モルタルの場合  
注入量(kg/10m<sup>2</sup>) = (鋼板取付面積(10 m<sup>2</sup>) × 注入厚(30mm) ÷ 裏当て鋼板体積) × 単位体積質量(1850 kg/m<sup>3</sup>)

3-3-40

**2. 数量算出項目**

鋼板巻立て(材料費)、スタッドジベル(材料費)、鋼板巻立て、シール材(材料費)、注入材(材料費)、現場溶接、フーチングアンカー削孔・定着、アンカー筋(材料費)、アンカー注入材(材料費)の数量を区分ごとに算出する。

**3. 区分**

区分は、規格、支柱区分、注入材材質、溶接種別、板厚区分、削孔深とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

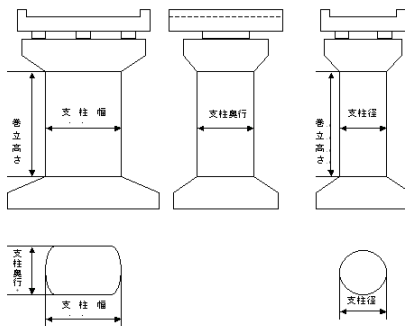

項 目	区 分	規格	支柱区分	注入材材質	溶接種別	板厚区分	削孔深	単 位	数 量	備 考
鋼板巻立て(材料費)	○	×	×	×	×	×	×	t		
スタッドジベル(材料費)	○	×	×	×	×	×	×	本		
鋼板巻立て	○	○	○	×	×	×	×	m <sup>2</sup>		
シール材(材料費)	○	×	×	×	×	×	×	m <sup>2</sup>		
注入材(材料費)	○	×	×	×	×	×	×	m <sup>2</sup>		
現場溶接	○	×	×	○	○	×	×	m		
フーチングアンカー削孔・定着	○	×	×	×	×	×	○	箇所		
アンカー筋(材料費)	○	×	×	×	×	×	×	本		
アンカー注入材(材料費)	○	×	×	×	×	×	×	本		

(2) 鋼板巻立ての支柱区分は、以下のとおりとする。

支柱区分

- A支柱
- B支柱
- C支柱
- D支柱
- E支柱
- F支柱
- G支柱
- H支柱

積算上の注意事項		(控え頁)
----------	--	-------

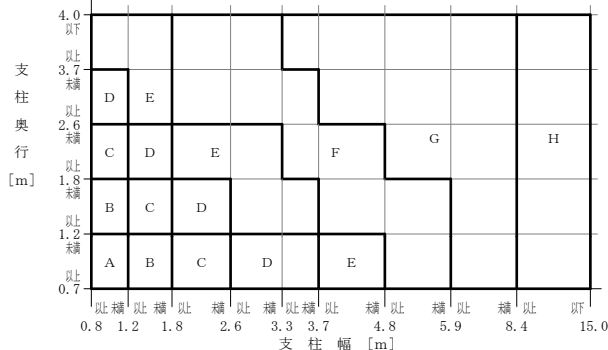
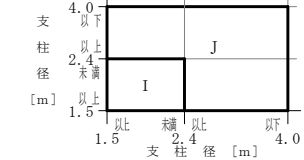
改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	備考																				
	<p>(2) 現場溶接工 現場溶接の延長は、溶接種別ごとに溶接延長を算出する。</p> <p>(3) フーチングアンカー削孔・定着 アンカー数量は、削孔長、アンカー径毎に数量を算出する。</p> <p><b>5. 支柱概念図</b></p> <p>(1) 矩形(小判形を含む)支柱</p>  <p>(2) 円形支柱</p>  <p>3-3-41</p>	<p>(3) 鋼板巻立ての注入材材質による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>注入材材質</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 無収縮モルタル</li> <li>— エポキシ樹脂</li> </ul> <p>(4) 現場溶接の溶接種別による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>溶接種別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— すみ肉脚長 6mm</li> <li>— 補強鋼板部(V型・L型)</li> </ul> <p>(5) 現場溶接の板厚区分は、以下のとおりとする。 (溶接種別が補強鋼板部(V型・L型)の場合のみ)</p> <p>板厚区分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 6mm, 9mm, 10mm</li> <li>— 12mm, 13mm</li> <li>— 14mm, 15mm</li> <li>— 16mm, 19mm</li> <li>— 21mm, 22mm</li> </ul> <p>(6) フーチングアンカー削孔・定着の削孔深による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>削孔深</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 0.8m以上 1.0m未満</li> <li>— 1.0m以上 1.2m未満</li> <li>— 1.2m以上 1.4m未満</li> <li>— 1.4m以上 1.6m未満</li> </ul> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" data-bbox="1249 1082 1921 1278"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場塗装工</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>t</td> <td></td> <td>「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照</td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>「第1編(共通編)4.2型枠工」参照</td> </tr> <tr> <td>コンクリート (根巻きコンクリート工)</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p>現行どおり</p>	項目	単位	数量	備考	現場塗装工	m <sup>2</sup>			鉄筋工	t		「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照	型枠	m <sup>2</sup>		「第1編(共通編)4.2型枠工」参照	コンクリート (根巻きコンクリート工)	m <sup>3</sup>		「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照	
項目	単位	数量	備考																				
現場塗装工	m <sup>2</sup>																						
鉄筋工	t		「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」参照																				
型枠	m <sup>2</sup>		「第1編(共通編)4.2型枠工」参照																				
コンクリート (根巻きコンクリート工)	m <sup>3</sup>		「第1編(共通編)4.1コンクリート工」参照																				
積算上の注意事項			(控え頁) 3/5																				

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																					
現 行	改 正	備 考																																																					
	<p><b>4. 数量算出方法</b>            数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 鋼板巻立て(材料費)は、規格ごとの質量(t)を算出する。なお、規格は以下を標準とするが、該当しない場合は、形状、ブラケットの有無、塗装の仕様等を明記する。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><th>番号</th><th>鋼 板 規 格</th></tr> <tr><td>①</td><td>円形補強鋼板(ブラケット有)</td></tr> <tr><td>②</td><td>円形補強鋼板(ブラケット無)</td></tr> <tr><td>③</td><td>矩形補強鋼板(ブラケット有)</td></tr> <tr><td>④</td><td>矩形補強鋼板(ブラケット無)</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>下端拘束用円形鋼板</td></tr> <tr><td>⑥</td><td>下端拘束用形鋼</td></tr> <tr><td>⑦</td><td>各種</td></tr> </table> <p style="margin-left: 20px;">注) 鋼板の塗装系はC-5系(上塗りまで含む)を標準とする。</p> <p>(2) スタッドジベル(材料費)は、規格ごとの本数を算出する。なお、規格は以下を標準とするが、該当しない場合は、径、長さ等を明記する。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><th>番号</th><th>スタッドジベル規格</th></tr> <tr><td>①</td><td>φ19×250</td></tr> <tr><td>②</td><td>φ22×250</td></tr> <tr><td>③</td><td>各種</td></tr> </table> <p style="margin-left: 20px;">注) 工場制作品を標準とする。</p> <p>(3) シール材(材料費)の数量は、鋼板巻立て面積(m<sup>2</sup>)当りの質量(kg)とする。            縁部、パイプ周りについて、下記の式より必要数量を算出する。            「シール断面積×シール延長×単位質量1,700(kg/m<sup>3</sup>)×(1+割増率)」            割増率は、下表に示す値とする。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">支柱区分</th> <th colspan="2">割増率</th> </tr> <tr> <th>注入材が無収縮モルタルの場合</th> <th>注入材がエポキシ樹脂の場合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>A支柱</td><td>0.56</td><td>0.47</td></tr> <tr><td>B支柱</td><td>0.54</td><td>0.46</td></tr> <tr><td>C支柱</td><td>0.53</td><td>0.43</td></tr> <tr><td>D支柱</td><td>0.50</td><td>0.41</td></tr> <tr><td>E支柱</td><td>0.60</td><td>0.49</td></tr> <tr><td>F支柱</td><td>0.56</td><td>0.47</td></tr> <tr><td>G支柱</td><td>0.54</td><td>0.44</td></tr> <tr><td>H支柱</td><td>0.53</td><td>0.43</td></tr> </tbody> </table>	番号	鋼 板 規 格	①	円形補強鋼板(ブラケット有)	②	円形補強鋼板(ブラケット無)	③	矩形補強鋼板(ブラケット有)	④	矩形補強鋼板(ブラケット無)	⑤	下端拘束用円形鋼板	⑥	下端拘束用形鋼	⑦	各種	番号	スタッドジベル規格	①	φ19×250	②	φ22×250	③	各種	支柱区分	割増率		注入材が無収縮モルタルの場合	注入材がエポキシ樹脂の場合	A支柱	0.56	0.47	B支柱	0.54	0.46	C支柱	0.53	0.43	D支柱	0.50	0.41	E支柱	0.60	0.49	F支柱	0.56	0.47	G支柱	0.54	0.44	H支柱	0.53	0.43	
番号	鋼 板 規 格																																																						
①	円形補強鋼板(ブラケット有)																																																						
②	円形補強鋼板(ブラケット無)																																																						
③	矩形補強鋼板(ブラケット有)																																																						
④	矩形補強鋼板(ブラケット無)																																																						
⑤	下端拘束用円形鋼板																																																						
⑥	下端拘束用形鋼																																																						
⑦	各種																																																						
番号	スタッドジベル規格																																																						
①	φ19×250																																																						
②	φ22×250																																																						
③	各種																																																						
支柱区分	割増率																																																						
	注入材が無収縮モルタルの場合	注入材がエポキシ樹脂の場合																																																					
A支柱	0.56	0.47																																																					
B支柱	0.54	0.46																																																					
C支柱	0.53	0.43																																																					
D支柱	0.50	0.41																																																					
E支柱	0.60	0.49																																																					
F支柱	0.56	0.47																																																					
G支柱	0.54	0.44																																																					
H支柱	0.53	0.43																																																					
積算上の注意事項			(控え頁) 4/5																																																				

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																																
現 行	改 正		備 考																																																															
	<p>(4) 注入材（材料費）の数量は、鋼板巻立て面積（m<sup>2</sup>）当りの質量(kg)とする。</p> <p>1) 無収縮モルタルの場合 下記の式より必要数量を算出する。 「（鋼板取付面積 10(m<sup>2</sup>) × 注入厚 0.03(m) - 裏当て鋼板体積） × 単位質量 1,850(kg/m<sup>3</sup>) × (1 + 割増率) / 10(m<sup>2</sup>)」 割増率は下表に示す値とする。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>支柱区分</th> <th>割増率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>A 支柱</td><td>0.58</td></tr> <tr><td>B 支柱</td><td>0.55</td></tr> <tr><td>C 支柱</td><td>0.54</td></tr> <tr><td>D 支柱</td><td>0.52</td></tr> <tr><td>E 支柱</td><td>0.61</td></tr> <tr><td>F 支柱</td><td>0.58</td></tr> <tr><td>G 支柱</td><td>0.55</td></tr> <tr><td>H 支柱</td><td>0.54</td></tr> </tbody> </table> <p>2) エポキシ樹脂の場合 下記の式より必要数量を算出する。 「（鋼板取付面積 10(m<sup>2</sup>) × 注入厚 0.005(m) - 裏当て鋼板体積） × 単位質量 1,200(kg/m<sup>3</sup>) × (1 + 割増率) / 10(m<sup>2</sup>)」 割増率は下表に示す値とする。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>支柱区分</th> <th>割増率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>A 支柱</td><td>0.42</td></tr> <tr><td>B 支柱</td><td>0.41</td></tr> <tr><td>C 支柱</td><td>0.38</td></tr> <tr><td>D 支柱</td><td>0.36</td></tr> <tr><td>E 支柱</td><td>0.44</td></tr> <tr><td>F 支柱</td><td>0.42</td></tr> <tr><td>G 支柱</td><td>0.39</td></tr> <tr><td>H 支柱</td><td>0.38</td></tr> </tbody> </table> <p>(5) アンカー筋（材料費）は、規格（径、長さ等）ごとの本数を算出する。</p> <p>(6) アンカー注入材（材料費）の使用量は、下表を標準とする。 (削孔深 1m・100 箇所当り)</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>アンカー筋径</th> <th>削孔径 (mm)</th> <th>注入材使用量 (kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>D16</td><td>26</td><td>46</td></tr> <tr><td>D19</td><td>29</td><td>52</td></tr> <tr><td>D22</td><td>32</td><td>59</td></tr> <tr><td>D25</td><td>35</td><td>65</td></tr> <tr><td>D29</td><td>39</td><td>74</td></tr> <tr><td>D32</td><td>42</td><td>80</td></tr> <tr><td>D35</td><td>45</td><td>87</td></tr> <tr><td>D38</td><td>48</td><td>93</td></tr> </tbody> </table> <p>ただし、これにより難い場合は、次式によるものとする。 使用量(kg)=[(D<sup>2</sup>-d<sup>2</sup>)×π×L/4×L×100 箇所]×M×(1+K)/100 箇所 D：削孔径 (m) d：アンカー筋径 (m) L：削孔深 (m) M：単価質量は 1,200 kg/m<sup>3</sup> とする。 K：ロス率は+0.14 とする。</p>	支柱区分	割増率	A 支柱	0.58	B 支柱	0.55	C 支柱	0.54	D 支柱	0.52	E 支柱	0.61	F 支柱	0.58	G 支柱	0.55	H 支柱	0.54	支柱区分	割増率	A 支柱	0.42	B 支柱	0.41	C 支柱	0.38	D 支柱	0.36	E 支柱	0.44	F 支柱	0.42	G 支柱	0.39	H 支柱	0.38	アンカー筋径	削孔径 (mm)	注入材使用量 (kg)	D16	26	46	D19	29	52	D22	32	59	D25	35	65	D29	39	74	D32	42	80	D35	45	87	D38	48	93		
支柱区分	割増率																																																																	
A 支柱	0.58																																																																	
B 支柱	0.55																																																																	
C 支柱	0.54																																																																	
D 支柱	0.52																																																																	
E 支柱	0.61																																																																	
F 支柱	0.58																																																																	
G 支柱	0.55																																																																	
H 支柱	0.54																																																																	
支柱区分	割増率																																																																	
A 支柱	0.42																																																																	
B 支柱	0.41																																																																	
C 支柱	0.38																																																																	
D 支柱	0.36																																																																	
E 支柱	0.44																																																																	
F 支柱	0.42																																																																	
G 支柱	0.39																																																																	
H 支柱	0.38																																																																	
アンカー筋径	削孔径 (mm)	注入材使用量 (kg)																																																																
D16	26	46																																																																
D19	29	52																																																																
D22	32	59																																																																
D25	35	65																																																																
D29	39	74																																																																
D32	42	80																																																																
D35	45	87																																																																
D38	48	93																																																																
積算上の注意事項			(控え頁) 5/5																																																															

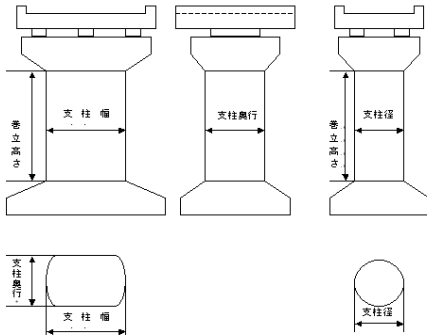
改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																																																		
現 行	改 正	備 考																																																																																		
<p><b>3. 21. 1(2) 橋梁補強工(鋼板巻立て)</b></p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>橋梁補強工(鋼板巻立て)(合理化)を外れたRC橋脚(既設の鉄筋コンクリート橋脚)の補強に鋼板巻立て工を行う場合に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>鋼板巻立て、現場溶接、フーチングアンカー削孔・定着、足場の数量とする。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、作業区分とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">区 分</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">鋼 板</td> <td>鋼板の鋼材質量</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッドジベル</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">巻 立</td> <td>鋼板取付</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シール材</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">て</td> <td>注入材</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現場溶接</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フーチングアンカー削孔・定着</td> <td>アンカー筋</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足 場</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>掛m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		区 分		規格・仕様	単位	数 量	備 考	鋼 板	鋼板の鋼材質量	×	t			スタッドジベル	×	本			巻 立	鋼板取付	×	m <sup>2</sup>			シール材	○	kg			て	注入材	○	kg			現場溶接	○	m			フーチングアンカー削孔・定着	アンカー筋	○	本			足 場		○	掛m <sup>2</sup>			<p><b>3. 21. 1(2) 橋梁補強工(鋼板巻立て)(2)</b></p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>「橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)」が適用できる寸法の範囲を外れた橋脚の鋼板巻立てに適用する。</p> <p>参考(橋梁補強工(鋼板巻立て)(1)が適用できる寸法の範囲以外)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 矩形、小判型支柱(幅1~1.0m、奥行き1~6m)、円形支柱(径1~6m)以外の橋脚の場合</li> </ul> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>鋼板巻立て(材料費)、鋼板取付、シール材(材料費)、注入材(材料費)の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>注) 鋼板巻立て(材料費)は、「第3編(道路編)3.21.1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て(1))」によるものとする</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、規格、注入材材質とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>規格</th> <th>注入材材質</th> <th>単位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋼板巻立て(材料費)</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>t</td> <td></td> <td>「第3編(道路編)3.21.1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て(1))」参照</td> </tr> <tr> <td>鋼板取付</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>シール材(材料費)</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材(材料費)</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 鋼板取付の注入材材質による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>注入材材質</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 無収縮モルタル</li> <li>— エポキシ樹脂</li> </ul>		区 分	規格	注入材材質	単位	数 量	備 考	鋼板巻立て(材料費)	○	×	t		「第3編(道路編)3.21.1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て(1))」参照	鋼板取付	○	○	m <sup>2</sup>			シール材(材料費)	○	×	m <sup>2</sup>			注入材(材料費)	○	×	m <sup>2</sup>		
区 分		規格・仕様	単位	数 量	備 考																																																																															
鋼 板	鋼板の鋼材質量	×	t																																																																																	
	スタッドジベル	×	本																																																																																	
巻 立	鋼板取付	×	m <sup>2</sup>																																																																																	
	シール材	○	kg																																																																																	
て	注入材	○	kg																																																																																	
	現場溶接	○	m																																																																																	
フーチングアンカー削孔・定着	アンカー筋	○	本																																																																																	
足 場		○	掛m <sup>2</sup>																																																																																	
区 分	規格	注入材材質	単位	数 量	備 考																																																																															
鋼板巻立て(材料費)	○	×	t		「第3編(道路編)3.21.1(1)橋梁補強工(鋼板巻立て(1))」参照																																																																															
鋼板取付	○	○	m <sup>2</sup>																																																																																	
シール材(材料費)	○	×	m <sup>2</sup>																																																																																	
注入材(材料費)	○	×	m <sup>2</sup>																																																																																	
3-3-42																																																																																				
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																																																	

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																															
現 行	改 正		備 考																																														
<p><b>4. 数量算出方法</b>          数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 鋼板巻立て          1) 鋼板の鋼材質量          鋼材質量は、「第3編（道路編）4章鋼橋上部工 4.1鋼材」を参照の上、算出するものとする。</p> <p>2) 鋼板取付          鋼板取付の面積は、鋼板取付面積とする。</p> <p>3) シール材          シール材はエポキシ樹脂とし、注入量は縁部、パイプ周りについて下式により算出する。なお、注入量は鋼板取付10m<sup>2</sup>当り数量とする。          注入量=シール断面積×シール延長×単位質量(1700kg/m<sup>3</sup>)</p> <p>4) 注入材          注入材はエポキシ樹脂又は無収縮モルタルとし、鋼板取付10m<sup>2</sup>当り注入量は、下式により算出する。          ・エポキシ樹脂の場合          注入量(kg/10m<sup>2</sup>) = (鋼板取付面積(10m<sup>2</sup>)×注入厚(5mm)－裏当て鋼板体積) ×単位体積質量(1200kg/m<sup>3</sup>)          ・無収縮モルタルの場合          注入量(kg/10m<sup>2</sup>) = (鋼板取付面積(10m<sup>2</sup>)×注入厚(30mm)－裏当て鋼板体積) ×単位体積質量(1850kg/m<sup>3</sup>)</p> <p>(2) 現場溶接工          現場溶接の延長は、溶接種別ごとに溶接延長を算出する。</p> <p>(3) フーチングアンカー削孔・定着          アンカー数量は、削孔長、アンカー筋径毎に数量を算出する。</p> <p>(4) 足場          足場は、枠組足場を標準とし、「第1編（共通編）11章11.4足場工」によるものとする。</p>	<p style="text-align: center;">関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場工</td> <td>掛m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>「第3編（道路編）3.21.2 (2) 橋梁補強工（コンクリート巻立て）(2)」参照</td> </tr> <tr> <td>現場溶接</td> <td>m</td> <td></td> <td>「第3編（道路編）3.21.1 (1) 橋梁補強工（鋼板巻立て）(1)」参照</td> </tr> <tr> <td>フーチングアンカー削孔・定着</td> <td>箇所</td> <td></td> <td>「第3編（道路編）3.21.1 (1) 橋梁補強工（鋼板巻立て）(1)」参照</td> </tr> <tr> <td>アンカー筋（材料費）</td> <td>本</td> <td></td> <td>「第3編（道路編）3.21.1 (1) 橋梁補強工（鋼板巻立て）(1)」参照</td> </tr> <tr> <td>アンカー注入材（材料費）</td> <td>本</td> <td></td> <td>「第3編（道路編）3.21.1 (1) 橋梁補強工（鋼板巻立て）(1)」参照</td> </tr> <tr> <td>現場塗装工</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>t</td> <td></td> <td>「第1編（共通編）4.3.1鉄筋工」参照</td> </tr> <tr> <td>型枠</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>「第1編（共通編）4.2型枠工」参照</td> </tr> <tr> <td>コンクリート（根巻きコンクリート工）</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>「第1編（共通編）4.1コンクリート工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4. 数量算出方法</b>          数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) シール材（材料費）の数量は、鋼板巻立て面積（m<sup>2</sup>）当りの質量(kg)とする。          縁部、パイプ周りについて、下記の式より必要数量を算出する。          「シール断面積×シール延長×単位質量1,700(kg/m<sup>3</sup>) × (1+割増率)」          割増率は下表に示す値とする。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">割増率</th> </tr> <tr> <th>注入材が無収縮モルタルの場合</th> <th>注入材がエポキシ樹脂の場合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">0.43</td> <td style="text-align: center;">0.36</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 注入材（材料費）の数量は、鋼板巻立て面積（m<sup>2</sup>）当りの質量(kg)とする。</p> <p>1) 無収縮モルタルの場合          下記の式より必要数量を算出する。          「(鋼板取付面積10(m<sup>2</sup>)×注入厚0.03(m)－裏当て鋼板体積) ×単位質量1,850(kg/m<sup>3</sup>) × (1+割増率) /10(m<sup>2</sup>)」          割増率は+0.44 とする。</p> <p>2) エポキシ樹脂の場合          下記の式より必要数量を算出する。          「(鋼板取付面積10(m<sup>2</sup>)×注入厚0.005(m)－裏当て鋼板体積) ×単位質量1,200(kg/m<sup>3</sup>) × (1+割増率) /10(m<sup>2</sup>)」          割増率は+0.31 とする。</p>	項目	単位	数量	備考	足場工	掛m <sup>2</sup>		「第3編（道路編）3.21.2 (2) 橋梁補強工（コンクリート巻立て）(2)」参照	現場溶接	m		「第3編（道路編）3.21.1 (1) 橋梁補強工（鋼板巻立て）(1)」参照	フーチングアンカー削孔・定着	箇所		「第3編（道路編）3.21.1 (1) 橋梁補強工（鋼板巻立て）(1)」参照	アンカー筋（材料費）	本		「第3編（道路編）3.21.1 (1) 橋梁補強工（鋼板巻立て）(1)」参照	アンカー注入材（材料費）	本		「第3編（道路編）3.21.1 (1) 橋梁補強工（鋼板巻立て）(1)」参照	現場塗装工	m <sup>2</sup>			鉄筋工	t		「第1編（共通編）4.3.1鉄筋工」参照	型枠	m <sup>2</sup>		「第1編（共通編）4.2型枠工」参照	コンクリート（根巻きコンクリート工）	m <sup>3</sup>		「第1編（共通編）4.1コンクリート工」参照	割増率		注入材が無収縮モルタルの場合	注入材がエポキシ樹脂の場合	0.43	0.36		
項目	単位	数量	備考																																														
足場工	掛m <sup>2</sup>		「第3編（道路編）3.21.2 (2) 橋梁補強工（コンクリート巻立て）(2)」参照																																														
現場溶接	m		「第3編（道路編）3.21.1 (1) 橋梁補強工（鋼板巻立て）(1)」参照																																														
フーチングアンカー削孔・定着	箇所		「第3編（道路編）3.21.1 (1) 橋梁補強工（鋼板巻立て）(1)」参照																																														
アンカー筋（材料費）	本		「第3編（道路編）3.21.1 (1) 橋梁補強工（鋼板巻立て）(1)」参照																																														
アンカー注入材（材料費）	本		「第3編（道路編）3.21.1 (1) 橋梁補強工（鋼板巻立て）(1)」参照																																														
現場塗装工	m <sup>2</sup>																																																
鉄筋工	t		「第1編（共通編）4.3.1鉄筋工」参照																																														
型枠	m <sup>2</sup>		「第1編（共通編）4.2型枠工」参照																																														
コンクリート（根巻きコンクリート工）	m <sup>3</sup>		「第1編（共通編）4.1コンクリート工」参照																																														
割増率																																																	
注入材が無収縮モルタルの場合	注入材がエポキシ樹脂の場合																																																
0.43	0.36																																																
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2																																														

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	備考
	<p><b>3. 21. 2(1) 橋梁補強工(コンクリート巻立て)(合理化)</b></p> <p>1. 適用</p> <p>下記に示す支柱の形状区分におけるRC橋脚(既設の鉄筋コンクリート橋脚)の補強にコンクリート巻立てを行う場合に適用する。 ただし、エポキシ樹脂系注入材によるアンカー定着の場合に限り、梁及びフーチングの補強には適用しない。</p> <p>(1) 矩形(小判形を含む)支柱</p>  <p>(2) 円形支柱</p> 	<p><b>3. 21. 2(1) 橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)</b></p> <p>1. 適用</p> <p>RC橋脚(既設の鉄筋コンクリート橋脚)の補強用コンクリート巻立て工を行う場合に適用する。 ただし、エポキシ樹脂系注入材によるアンカー定着の場合に限り、梁及びフーチングの補強には適用しない。</p> <p>適用できる範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・矩形(小判形を含む)支柱の幅および奥行は以下を標準としており、支柱区分を下図より選択する。(支柱幅および奥行は補強前の支柱寸法とする。)</li> <li>・円形支柱の径は以下を標準としており、支柱区分を下図より選択する。(支柱径は補強前の支柱寸法とする。)</li> </ul> <p>現行どおり</p> <p>現行どおり</p>	備考
積算上の注意事項	3-3-44		(控え頁) 1/5



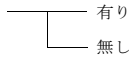
改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																																																																																	
現	行	改	正																																																																																																																
<p><b>2. 数量算出項目</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">             コンクリート削孔、コンクリート巻立ての数量とする。         </div> <p>(1) 数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート巻立て</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 足場工(枠組足場)及び下地処理(チッピング以外)が必要な場合は、3.2.2.2(2)によるものとする。</p> <p><b>3. 数量算出方法</b></p> <p>数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) コンクリート削孔の内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンカー材</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカー材径</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>削孔深</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) アンカー材に鉄筋(異形棒鋼)を用いる場合も同様とする。</p> <p>(2) コンクリート巻立ての内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支柱区分</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	規格・仕様	単位	数量	備考	コンクリート削孔	○	箇所			コンクリート巻立て	○	m <sup>3</sup>			項目	区分	規格	単位	数量	備考	アンカー材		○	本			アンカー材径		○	mm			削孔深		×	mm			注入材		×	kg			項目	区分	規格	単位	数量	備考	支柱区分		×	m			コンクリート		○	m <sup>3</sup>			<p><b>2. 数量算出項目</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">             コンクリート削孔、アンカー筋(材料費)、コンクリート巻立ての数量を区分ごとに算出する。         </div> <p><b>3. 区分</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">             区分は、規格、アンカー材径、削孔深、支柱区分、施工内容、生コンクリート規格、養生工の有無とする。         </div> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>アンカー材径</th> <th>削孔深</th> <th>支柱区分</th> <th>施工内容</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>養生工の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカー筋(材料費)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート巻立て</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		項目	区分	規格	アンカー材径	削孔深	支柱区分	施工内容	生コンクリート規格	養生工の有無	単位	数量	備考	コンクリート削孔		○	○	○	×	×	×	×	箇所			アンカー筋(材料費)		○	×	×	×	×	×	×	本			コンクリート巻立て		○	×	×	○	○	○	○	m <sup>3</sup>			備考
項目	規格・仕様	単位	数量	備考																																																																																																															
コンクリート削孔	○	箇所																																																																																																																	
コンクリート巻立て	○	m <sup>3</sup>																																																																																																																	
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																																																														
アンカー材		○	本																																																																																																																
アンカー材径		○	mm																																																																																																																
削孔深		×	mm																																																																																																																
注入材		×	kg																																																																																																																
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																																																														
支柱区分		×	m																																																																																																																
コンクリート		○	m <sup>3</sup>																																																																																																																
項目	区分	規格	アンカー材径	削孔深	支柱区分	施工内容	生コンクリート規格	養生工の有無	単位	数量	備考																																																																																																								
コンクリート削孔		○	○	○	×	×	×	×	箇所																																																																																																										
アンカー筋(材料費)		○	×	×	×	×	×	×	本																																																																																																										
コンクリート巻立て		○	×	×	○	○	○	○	m <sup>3</sup>																																																																																																										
積算上の注意事項	3-3-45		(控え頁) 2/5																																																																																																																

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	備考																																																																																																																	
<p>現 行</p> <div data-bbox="179 395 954 778" style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>(3) 注入材 注入材はエポキシ樹脂系注入材とし、アンカー材 100 本当りの注入材使用量は、下式により算出する。 使用量(kg) = <math>[(D^2 - d^2) \times \pi \times 1/4 \times L \times 100 \text{箇所}] \times M \times (1 + K)</math></p> <p>D: 削 孔 径 (m) d: アンカー材径 (m) L: 削 孔 深 (m) M: 単位質量は 1,200kg/m<sup>3</sup> とする。 K: 割増係数は +0.09 とする。</p> <table border="1" data-bbox="268 582 560 619"> <tr> <th>アンカー材径 (d)</th> <th>削孔径 (D)</th> </tr> <tr> <td>D16~D35</td> <td>d + 10 (mm)</td> </tr> </table> <p>(4) 削孔径、削孔深 削孔径、削孔深は以下の区分に分類して算出する。</p> <table border="1" data-bbox="280 683 571 766"> <tr> <td rowspan="2">削孔径 (mm)</td> <td>20以上</td> <td>30以上</td> </tr> <tr> <td>30未満</td> <td>50以下</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">削孔深 (mm)</td> <td>200以上</td> <td>300以上 600以上</td> </tr> <tr> <td>400以下</td> <td>600未満 900以下</td> </tr> </table> <p>4. 支柱概念図</p>  <p style="text-align: center;">3-3-46</p> </div>	アンカー材径 (d)	削孔径 (D)	D16~D35	d + 10 (mm)	削孔径 (mm)	20以上	30以上	30未満	50以下	削孔深 (mm)	200以上	300以上 600以上	400以下	600未満 900以下	<p>改 正</p> <div data-bbox="1232 395 1904 1353" style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>(2) コンクリート削孔のアンカー材径及び削孔深による区分は、以下のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="1299 422 1881 1332"> <thead> <tr> <th rowspan="2">コンクリート削孔</th> <th colspan="2">アンカー材径</th> <th colspan="2">削孔深</th> </tr> <tr> <th>D16</th> <th>D19</th> <th>D22</th> <th>D25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">D16</td> <td>200mm 以上 250mm 未満</td> <td>250mm 以上 300mm 未満</td> <td>300mm 以上 360mm 以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>200mm 以上 250mm 未満</td> <td>250mm 以上 300mm 未満</td> <td>300mm 以上 350mm 未満</td> <td>350mm 以上 400mm 以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>350mm 以上 420mm 未満</td> <td>420mm 以上 500mm 未満</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">D19</td> <td>320mm 以上 390mm 未満</td> <td>390mm 以上 460mm 未満</td> <td>460mm 以上 540mm 未満</td> <td>540mm 以上 600mm 未満</td> </tr> <tr> <td>400mm 以上 460mm 未満</td> <td>460mm 以上 530mm 未満</td> <td>530mm 以上 600mm 未満</td> <td>600mm 以上 700mm 以下</td> </tr> <tr> <td>400mm 以上 460mm 未満</td> <td>460mm 以上 530mm 未満</td> <td>530mm 以上 600mm 未満</td> <td>600mm 以上 690mm 以下</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">D22</td> <td>480mm 以上 540mm 未満</td> <td>540mm 以上 600mm 未満</td> <td>600mm 以上 670mm 未満</td> <td>670mm 以上 760mm 以下</td> </tr> <tr> <td>480mm 以上 540mm 未満</td> <td>540mm 以上 600mm 未満</td> <td>600mm 以上 670mm 未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">D25</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">D29</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">D32</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">D35</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">現行どおり</p> </div>	コンクリート削孔	アンカー材径		削孔深		D16	D19	D22	D25	D16	200mm 以上 250mm 未満	250mm 以上 300mm 未満	300mm 以上 360mm 以下		200mm 以上 250mm 未満	250mm 以上 300mm 未満	300mm 以上 350mm 未満	350mm 以上 400mm 以下			350mm 以上 420mm 未満	420mm 以上 500mm 未満	D19	320mm 以上 390mm 未満	390mm 以上 460mm 未満	460mm 以上 540mm 未満	540mm 以上 600mm 未満	400mm 以上 460mm 未満	460mm 以上 530mm 未満	530mm 以上 600mm 未満	600mm 以上 700mm 以下	400mm 以上 460mm 未満	460mm 以上 530mm 未満	530mm 以上 600mm 未満	600mm 以上 690mm 以下	D22	480mm 以上 540mm 未満	540mm 以上 600mm 未満	600mm 以上 670mm 未満	670mm 以上 760mm 以下	480mm 以上 540mm 未満	540mm 以上 600mm 未満	600mm 以上 670mm 未満						D25													D29													D32													D35													備考
アンカー材径 (d)	削孔径 (D)																																																																																																																			
D16~D35	d + 10 (mm)																																																																																																																			
削孔径 (mm)	20以上	30以上																																																																																																																		
	30未満	50以下																																																																																																																		
削孔深 (mm)	200以上	300以上 600以上																																																																																																																		
	400以下	600未満 900以下																																																																																																																		
コンクリート削孔	アンカー材径		削孔深																																																																																																																	
	D16	D19	D22	D25																																																																																																																
D16	200mm 以上 250mm 未満	250mm 以上 300mm 未満	300mm 以上 360mm 以下																																																																																																																	
	200mm 以上 250mm 未満	250mm 以上 300mm 未満	300mm 以上 350mm 未満	350mm 以上 400mm 以下																																																																																																																
			350mm 以上 420mm 未満	420mm 以上 500mm 未満																																																																																																																
D19	320mm 以上 390mm 未満	390mm 以上 460mm 未満	460mm 以上 540mm 未満	540mm 以上 600mm 未満																																																																																																																
	400mm 以上 460mm 未満	460mm 以上 530mm 未満	530mm 以上 600mm 未満	600mm 以上 700mm 以下																																																																																																																
	400mm 以上 460mm 未満	460mm 以上 530mm 未満	530mm 以上 600mm 未満	600mm 以上 690mm 以下																																																																																																																
D22	480mm 以上 540mm 未満	540mm 以上 600mm 未満	600mm 以上 670mm 未満	670mm 以上 760mm 以下																																																																																																																
	480mm 以上 540mm 未満	540mm 以上 600mm 未満	600mm 以上 670mm 未満																																																																																																																	
D25																																																																																																																				
D29																																																																																																																				
D32																																																																																																																				
D35																																																																																																																				
積算上の注意事項			(控え頁) 3/5																																																																																																																	

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																															
現 行	改 正	備 考																																															
	<p>(3) コンクリート巻立ての支柱区分は、以下のとおりとする。</p> <p>支柱区分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— A 支柱</li> <li>— B 支柱</li> <li>— C 支柱</li> <li>— D 支柱</li> <li>— E 支柱</li> <li>— F 支柱</li> <li>— G 支柱</li> <li>— H 支柱</li> <li>— I 支柱</li> <li>— J 支柱</li> </ul> <p>(4) コンクリート巻立ての施工内容による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>施工内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— a 施工</li> <li>— b 施工</li> <li>— c 施工</li> <li>— d 施工</li> </ul> <p>注) 各施工内容に含まれている施工区分・施工内容は、次表とする。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>施工区分・施工内容</th> <th>a 施工</th> <th>b 施工</th> <th>c 施工</th> <th>d 施工</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場設置・撤去工</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>下地処理工</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> <tr> <td>型枠設置・撤去工</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>コンクリート打設工</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>コンクリート養生工</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-left: 20px;">(注) 「○」が施工内容に含まれている。</p> <p>(5) コンクリート巻立ての養生工の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>養生工の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 有り</li> <li>— 無し</li> </ul> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鉄筋工</td> <td style="text-align: center;">t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別な養生</td> <td style="text-align: center;">m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>特別な下地処理</td> <td style="text-align: center;">m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table>	施工区分・施工内容	a 施工	b 施工	c 施工	d 施工	足場設置・撤去工	○	○	—	—	下地処理工	○	—	○	—	型枠設置・撤去工	○	○	○	○	コンクリート打設工	○	○	○	○	コンクリート養生工	○	○	○	○	項目	単位	数量	備考	鉄筋工	t			特別な養生	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上	特別な下地処理	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上		
施工区分・施工内容	a 施工	b 施工	c 施工	d 施工																																													
足場設置・撤去工	○	○	—	—																																													
下地処理工	○	—	○	—																																													
型枠設置・撤去工	○	○	○	○																																													
コンクリート打設工	○	○	○	○																																													
コンクリート養生工	○	○	○	○																																													
項目	単位	数量	備考																																														
鉄筋工	t																																																
特別な養生	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上																																														
特別な下地処理	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上																																														
積算上の注意事項		(控え頁) 4/5																																															

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	備考
現 行	改 正		
<div style="border: 2px solid red; width: 350px; height: 350px; margin: auto;"></div>	<p><b>4. 数量算出方法</b> 数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) アンカー筋(材料費)は、規格ごとに本数を算出する。 注) 1. アンカーの材料は、加工・組立が不要なアンカー材(製品)を標準とする。 2. 鉄筋(異形棒鋼)をアンカー材として使用する場合は、「第1編(共通編)4.3.1鉄筋工」により、別途使用質量を算出する。</p> <p>(2) 削孔径は、アンカー材径+10mmとする。</p> <p>(3) 下地処理は、チップングを標準とする。</p> <p>(4) 足場は、枠組足場(手摺先行型)を標準とし、単管足場及び単管傾斜足場を使用する場合については別途考慮する。</p> <p>(5) 養生工の有無は、養生工の種類(一般養生、特殊養生(練炭)及び特殊養生(ジェットヒータ))にかかわらず適用できる。</p> <p>(6) 保温養生等の特別な養生を必要とする場合は養生工無しを選択し、養生は、「第1編(共通編)4.1コンクリート工」により別途考慮する。</p>		
積算上の注意事項			(控え頁) 5/5

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																																									
現	行	改	正																																																																								
		備	考																																																																								
<p><b>3. 21. 2(2) 橋梁補強工(コンクリート巻立て)</b></p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>橋梁補強工(コンクリート巻立て)(合理化)を外れたRC橋脚(既設の鉄筋コンクリート橋脚)の補強にコンクリート巻立てを行う場合に適用する。なお、支柱の断面形状が鉛直方向に一定の構造物を対象とし、梁及びフーチングの補強には適用しない。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>(1) 足場 足場は、枠組足場を標準とし、「第1編(共通編) 1 1 章 1 1. 4 足場工」によるものとする。</p> <p>(2) 下地処理</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下地処理</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 型枠</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>型 枠</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 円形支柱の場合、型枠は半径3m以下の合板円形型枠数量を算出する。</p> <p>(4) コンクリート</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) コンクリート削孔 コンクリート削孔については、「3. 22. 2 (1) 橋梁補強工(コンクリート巻立て)(合理化)」によるものとする。</p>		項目	規格・仕様	単位	数量	備考	下地処理	×	m <sup>2</sup>			項目	規格・仕様	単位	数量	備考	型 枠	×	m <sup>2</sup>			項目	規格・仕様	単位	数量	備考	コンクリート	○	m <sup>3</sup>			<p><b>3. 21. 2(2) 橋梁補強工(コンクリート巻立て)(2)</b></p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>「橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)」が適用範囲外のRC橋脚(既設の鉄筋コンクリート橋脚)のコンクリート巻立て工における足場工、下地処理工、型枠工、コンクリート工に適用する。なお、支柱の断面形状が鉛直方向に一定の構造物を対象とし、梁及びフーチングの補強には適用しない。</p> <p>参考(橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)が適用できる寸法の範囲以外)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・矩形、小判型支柱(幅0.8~15.0m、奥行0.7~4.0m)の巻立て厚0.25mのコンクリート巻立て補強以外の場合</li> <li>・円形支柱(径1.5~4.0m)の巻立て厚0.25mのコンクリート巻立て補強以外の場合</li> </ul> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>足場(適用範囲外コンクリート巻立て)、下地処理(適用範囲外コンクリート巻立て)、型枠(適用範囲外コンクリート巻立て)、コンクリート(適用範囲外コンクリート巻立て)の数量を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、型枠種別、生コンクリート規格、養生の有無とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>型枠種別</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>養生の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>足場 (適用範囲外コンクリート巻立て)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">掛m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下地処理 (適用範囲外コンクリート巻立て)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>型枠 (適用範囲外コンクリート巻立て)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート (適用範囲外コンクリート巻立て)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 足場は、枠組足場(手摺先行型)を標準とする。 2. 単管足場及び単管傾斜足場については別途考慮する。 3. 下地処理は、チップングを標準とする。 4. 一般型枠の場合は、小判形支柱の両端部は含むが、円形支柱3m以下の円形部分には適用しない。</p> <p>(2) 型枠(適用範囲外コンクリート巻立て)の型枠種別による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>型枠種別</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="width: 20px; border-bottom: 1px solid black; margin-right: 5px;"></div> <span>一般型枠</span> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-left: 20px;"> <div style="width: 20px; border-bottom: 1px solid black; margin-right: 5px;"></div> <div style="width: 20px; border-left: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; margin-right: 5px;"></div> <span>合板円形型枠</span> </div>		項目	区 分	型枠種別	生コンクリート規格	養生の有無	単位	数量	備考	足場 (適用範囲外コンクリート巻立て)		×	×	×	掛m <sup>2</sup>			下地処理 (適用範囲外コンクリート巻立て)		×	×	×	m <sup>2</sup>			型枠 (適用範囲外コンクリート巻立て)		○	×	×	m <sup>2</sup>			コンクリート (適用範囲外コンクリート巻立て)		×	○	○	m <sup>3</sup>				
項目	規格・仕様	単位	数量	備考																																																																							
下地処理	×	m <sup>2</sup>																																																																									
項目	規格・仕様	単位	数量	備考																																																																							
型 枠	×	m <sup>2</sup>																																																																									
項目	規格・仕様	単位	数量	備考																																																																							
コンクリート	○	m <sup>3</sup>																																																																									
項目	区 分	型枠種別	生コンクリート規格	養生の有無	単位	数量	備考																																																																				
足場 (適用範囲外コンクリート巻立て)		×	×	×	掛m <sup>2</sup>																																																																						
下地処理 (適用範囲外コンクリート巻立て)		×	×	×	m <sup>2</sup>																																																																						
型枠 (適用範囲外コンクリート巻立て)		○	×	×	m <sup>2</sup>																																																																						
コンクリート (適用範囲外コンクリート巻立て)		×	○	○	m <sup>3</sup>																																																																						
3-3-47																																																																											
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																																								

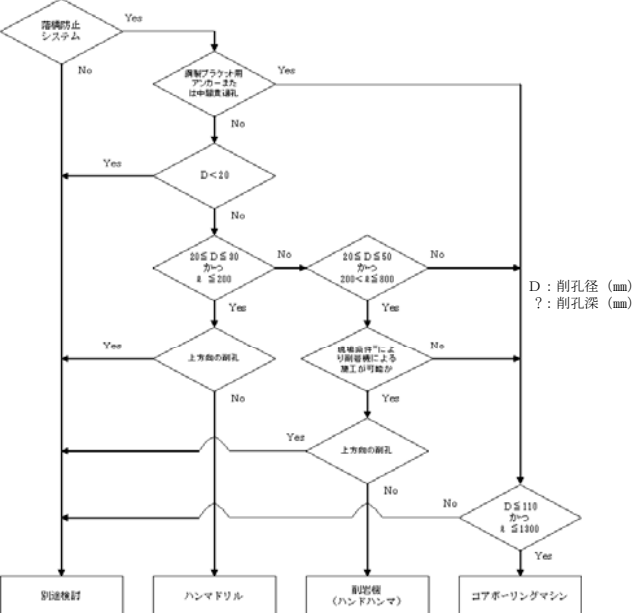
改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 — 現行																									
現 行	改 正	備 考																									
<div style="border: 2px solid red; width: 100%; height: 150px; margin-bottom: 20px;"></div> <div style="border: 2px solid red; width: 100%; height: 150px;"></div>	<p>(3) コンクリート(適用範囲外コンクリート巻立て)の養生工の有無による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>養生工の有無 </p> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">項目</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数量</th> <th style="width: 40%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔工</td> <td>箇所</td> <td></td> <td>「第3編(道路編)3.21.2(1)橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)」参照</td> </tr> <tr> <td>アンカー定着工</td> <td>本</td> <td></td> <td>「第3編(道路編)3.21.2(1)橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)」参照</td> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別な養生</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>特別な下地処理</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4. 数量算出方法</b>            数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 養生工の有無は、養生工の種類(一般養生、特殊養生(練炭)及び特殊養生(ジェットヒータ))にかかわらず適用できる。</p> <p>(2) 保温養生等の特別な養生を必要とする場合は養生工無しを選択し、養生は、「第1編(共通編)4.1コンクリート工」により別途考慮する。</p>	項目	単位	数量	備考	コンクリート削孔工	箇所		「第3編(道路編)3.21.2(1)橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)」参照	アンカー定着工	本		「第3編(道路編)3.21.2(1)橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)」参照	鉄筋工	t			特別な養生	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上	特別な下地処理	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上		
項目	単位	数量	備考																								
コンクリート削孔工	箇所		「第3編(道路編)3.21.2(1)橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)」参照																								
アンカー定着工	本		「第3編(道路編)3.21.2(1)橋梁補強工(コンクリート巻立て)(1)」参照																								
鉄筋工	t																										
特別な養生	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上																								
特別な下地処理	m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上																								
積算上の注意事項			(控え頁) 2/2																								

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																																																																													
現 行	改 正	備 考																																																																																																													
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>3. 22 落橋防止装置工</b></p> <p><b>3. 22. 1 落橋防止装置工</b></p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>落橋防止装置設置（けたかかり長、落橋防止構造、変位制限構造及び段差防止構造）に伴う、橋台・橋脚のコンクリート削孔、アンカー施工及び充填補修作業に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>コンクリート削孔、アンカー工、充填補修の数量を区分毎に算出する。</p> <p>(1) 数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔</td> <td></td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカー工</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>充填補修</td> <td></td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 足場工（枠組足場）が必要な場合は、「第1編（共通編）11章11.4足場工」によるものとする。</p> <p><b>3. 数量算出方法</b></p> <p>数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) コンクリート削孔の内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>区 分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削孔径</td> <td></td> <td>×</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>削孔深</td> <td></td> <td>×</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) アンカー工の内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>区 分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンカー材</td> <td></td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカー材径</td> <td></td> <td>○</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>削孔方向</td> <td></td> <td>×</td> <td></td> <td></td> <td>横方向、下方向</td> </tr> <tr> <td>削孔深</td> <td></td> <td>×</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材</td> <td></td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td>エポキシ樹脂系注入材</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 45%;"> <p>現行どおり</p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>落橋防止装置設置（けたかかり長、落橋防止構造、変位制限構造及び段差防止構造）に伴う、橋台・橋脚のコンクリート削孔、アンカー施工及び充填補修作業に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>コンクリート削孔（コアボーリングマシン）、コンクリート削孔（ハンマドリル）、コンクリート削孔（さく岩機（ハンドハンマ）、アンカー、アンカー材（材料費）、注入材（材料費）、充填補修、補修材（材料費）の数量を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、アンカー材径、削孔深さ、適用アンカー材径、削孔方向とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>①コンクリート削孔（コアボーリングマシン）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>区 分</th> <th>アンカー材径</th> <th>削孔深さ</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔 （コアボーリングマシン）</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。</p> <p>②コンクリート削孔（ハンマドリル）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔 （ハンマドリル）</td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。 2. 上方向のコンクリート削孔には適用しない。</p> <p>③コンクリート削孔（さく岩機（ハンドハンマ））</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>区 分</th> <th>削孔深さ</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート削孔 （さく岩機（ハンドハンマ））</td> <td></td> <td>○</td> <td>孔</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 不達孔（削孔ロス）を含み、不達孔の有無にかかわらず適用できる。 2. 上方向のコンクリート削孔には適用しない。</p> </div> </div>				項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考	コンクリート削孔		孔			アンカー工	○	本			充填補修		孔			項 目	区 分	規格	単位	数量	備 考	削孔径		×	mm			削孔深		×	mm			項 目	区 分	規格	単位	数量	備 考	アンカー材		○	本			アンカー材径		○	mm			削孔方向		×			横方向、下方向	削孔深		×	mm			注入材		○	kg		エポキシ樹脂系注入材	項 目	区 分	アンカー材径	削孔深さ	単 位	数 量	備 考	コンクリート削孔 （コアボーリングマシン）		○	○	孔			項 目	単 位	数 量	備 考	コンクリート削孔 （ハンマドリル）	孔			項 目	区 分	削孔深さ	単 位	数 量	備 考	コンクリート削孔 （さく岩機（ハンドハンマ））		○	孔		
項 目	規格・仕様	単 位	数 量	備 考																																																																																																											
コンクリート削孔		孔																																																																																																													
アンカー工	○	本																																																																																																													
充填補修		孔																																																																																																													
項 目	区 分	規格	単位	数量	備 考																																																																																																										
削孔径		×	mm																																																																																																												
削孔深		×	mm																																																																																																												
項 目	区 分	規格	単位	数量	備 考																																																																																																										
アンカー材		○	本																																																																																																												
アンカー材径		○	mm																																																																																																												
削孔方向		×			横方向、下方向																																																																																																										
削孔深		×	mm																																																																																																												
注入材		○	kg		エポキシ樹脂系注入材																																																																																																										
項 目	区 分	アンカー材径	削孔深さ	単 位	数 量	備 考																																																																																																									
コンクリート削孔 （コアボーリングマシン）		○	○	孔																																																																																																											
項 目	単 位	数 量	備 考																																																																																																												
コンクリート削孔 （ハンマドリル）	孔																																																																																																														
項 目	区 分	削孔深さ	単 位	数 量	備 考																																																																																																										
コンクリート削孔 （さく岩機（ハンドハンマ））		○	孔																																																																																																												
積算上の注意事項			(控え頁) 1/4																																																																																																												

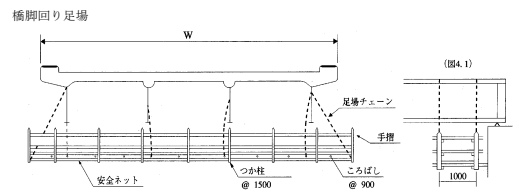
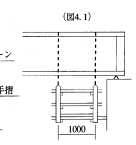
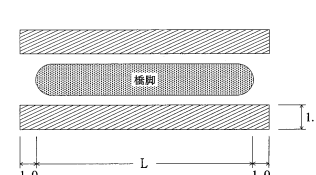
改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																																			
現 行	改 正	備 考																																																																			
<p>(3) 充填補修の内訳は下記の項目で算出する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項 目</th> <th style="text-align: center;">区 分</th> <th style="text-align: center;">規格</th> <th style="text-align: center;">単位</th> <th style="text-align: center;">数量</th> <th style="text-align: center;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削孔径</td> <td>×</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>削孔深</td> <td>×</td> <td>mm</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>補修材</td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> <td>セメント系グラウト材</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 注入材 注入材はエポキシ樹脂系注入材とし、100箇所当りの注入材使用量は、下式により算出する。 使用量(kg) = <math>[(D^2 - d^2) \times \pi \times 1/4 \times ? \times 100 \text{本}] \times M \times (1 + K)</math></p> <p>D : 削 孔 径 (m) d : アンカー材径 (m) ? : 削 孔 深 (m) M : 単位質量は1,200kg/m<sup>3</sup>とする。 K : 割増係数は+0.15とする。</p> <p>(5) 補修材 補修材はセメント系グラウト材とし、100箇所当りの注入材使用量は、下式により算出する。 使用量(kg) = <math>[D^2 \times \pi \times 1/4 \times ? \times 100 \text{本}] \times M \times (1 + K)</math></p> <p>D : 削孔径 (m) ? : 削孔深 (m) M : 単位質量は1,875kg/m<sup>3</sup>とする。 K : 割増係数は+0.15とする。</p>		項 目	区 分	規格	単位	数量	備 考	削孔径	×	mm				削孔深	×	mm				補修材	○	kg			セメント系グラウト材	<p>④アンカー</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項 目</th> <th style="text-align: center;">区 分</th> <th style="text-align: center;">適用 アンカー材径</th> <th style="text-align: center;">削孔方向</th> <th style="text-align: center;">単 位</th> <th style="text-align: center;">数 量</th> <th style="text-align: center;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンカー</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカー材 (材料費)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材 (材料費)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>充填補修</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">孔</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>補修材 (材料費)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">孔</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 上方向のアンカー打込みの場合は別途考慮する。</p> <p>(2) コンクリート削孔 (コアボーリングマシン) のアンカー材径による区分は、以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">アンカー材径</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 17mm 以下</li> <li>— 17mm を超え、23mm 以下</li> <li>— 23mm を超え、30mm 以下</li> <li>— 30mm を超え、43mm 以下</li> <li>— 43mm を超え、54mm 以下</li> <li>— 54mm を超え、67mm 以下</li> <li>— 67mm を超え、80mm 以下</li> <li>— 80mm を超え、100mm 以下</li> </ul> <p>(3) コンクリート削孔 (コアボーリングマシン) の削孔深さによる区分は、以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">削孔深さ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 500mm 以下</li> <li>— 500mm を超え、1,000mm 以下</li> <li>— 1,000mm を超え、1,300mm 以下 (アンカー材径30mmを超え、100mm以下のみ)</li> </ul> <p>(4) コンクリート削孔 (さく岩機 (ハンドハンマ)) の削孔深さによる区分は、以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">削孔深さ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 200mm を超え、500mm 以下</li> <li>— 500mm を超え、800mm 以下</li> </ul>		項 目	区 分	適用 アンカー材径	削孔方向	単 位	数 量	備 考	アンカー		○	○	本			アンカー材 (材料費)		×	×	本			注入材 (材料費)		×	×	本			充填補修		×	×	孔			補修材 (材料費)		×	×	孔		
項 目	区 分	規格	単位	数量	備 考																																																																
削孔径	×	mm																																																																			
削孔深	×	mm																																																																			
補修材	○	kg			セメント系グラウト材																																																																
項 目	区 分	適用 アンカー材径	削孔方向	単 位	数 量	備 考																																																															
アンカー		○	○	本																																																																	
アンカー材 (材料費)		×	×	本																																																																	
注入材 (材料費)		×	×	本																																																																	
充填補修		×	×	孔																																																																	
補修材 (材料費)		×	×	孔																																																																	
積算上の注意事項	3-3-49	(控え頁)	2/4																																																																		



改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																								
現 行	改 正	備 考																																								
	<p>(5) アンカーの適用アンカー材径による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>適用アンカー材径</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 25mm 以下</li> <li>— 25mm を超え、40mm 以下</li> <li>— 40mm を超え、55mm 以下</li> <li>— 55mm を超え、70mm 以下</li> <li>— 70mm を超え、85mm 以下</li> </ul> <p>(6) アンカーの削孔方向による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>削孔方向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 横方向</li> <li>— 下方向</li> </ul> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">項目</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数量</th> <th style="width: 30%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>泥水処理工</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> <tr> <td>足場工</td> <td>掛m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>必要な場合別途計上</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4. 数量算出方法</b>            数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) アンカー材（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。</p> <p>(2) 注入材（材料費）はエポキシ樹脂系注入材を標準とし、1本当りの注入材使用量を下式により算出する。</p> $\text{使用量 (kg)} = \{ (D^2 - d^2) \times \pi \times 1 / 4 \times \ell \} \times M \times (1 + K) \quad (\text{kg/本})$ <p>D：削孔径 (m)            d：アンカー材径 (m)            ℓ：削孔深 (m)            M：単位質量は 1,200 kg/m<sup>3</sup> とする。            K：ロス率は +0.15 とする。</p> <p>(3) 補修材（材料費）はセメント系グラウト材を標準とし、1孔当りの注入材使用量を下式により算出する。</p> $\text{使用量 (kg)} = \{ D^2 \times \pi \times 1 / 4 \times \ell \} \times M \times (1 + K) \quad (\text{kg/孔})$ <p>D：削孔径 (m)            ℓ：削孔深 (m)（削孔深は不達孔の平均削孔深とする）            M：単位質量は 1,875 kg/m<sup>3</sup> とする。            K：ロス率は +0.15 とする。</p> <p>(4) 削孔径はアンカー材径+10 mm以上を確保できるビット径とし、アンカー材径に適用する削孔径と使用ビット径は下表を標準とする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>アンカー材径 (mm)</th> <th>17以下</th> <th>17を超え 23以下</th> <th>23を超え 30以下</th> <th>30を超え 43以下</th> <th>43を超え 54以下</th> <th>54を超え 67以下</th> <th>67を超え 80以下</th> <th>80を超え 100以下</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>適用削孔径 (mm)</td> <td>27以下</td> <td>27を超え 33以下</td> <td>33を超え 40以下</td> <td>40を超え 53以下</td> <td>53を超え 64以下</td> <td>64を超え 77以下</td> <td>77を超え 90以下</td> <td>90を超え 110以下</td> </tr> <tr> <td>使用ビット径 (mm)</td> <td>27.6</td> <td>33.1</td> <td>40.0</td> <td>53.1</td> <td>64.7</td> <td>77.4</td> <td>90.8</td> <td>110.0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	単位	数量	備考	泥水処理工	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上	足場工	掛m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上	アンカー材径 (mm)	17以下	17を超え 23以下	23を超え 30以下	30を超え 43以下	43を超え 54以下	54を超え 67以下	67を超え 80以下	80を超え 100以下	適用削孔径 (mm)	27以下	27を超え 33以下	33を超え 40以下	40を超え 53以下	53を超え 64以下	64を超え 77以下	77を超え 90以下	90を超え 110以下	使用ビット径 (mm)	27.6	33.1	40.0	53.1	64.7	77.4	90.8	110.0		
項目	単位	数量	備考																																							
泥水処理工	m <sup>3</sup>		必要な場合別途計上																																							
足場工	掛m <sup>2</sup>		必要な場合別途計上																																							
アンカー材径 (mm)	17以下	17を超え 23以下	23を超え 30以下	30を超え 43以下	43を超え 54以下	54を超え 67以下	67を超え 80以下	80を超え 100以下																																		
適用削孔径 (mm)	27以下	27を超え 33以下	33を超え 40以下	40を超え 53以下	53を超え 64以下	64を超え 77以下	77を超え 90以下	90を超え 110以下																																		
使用ビット径 (mm)	27.6	33.1	40.0	53.1	64.7	77.4	90.8	110.0																																		
積算上の注意事項			(控え頁) 3/4																																							

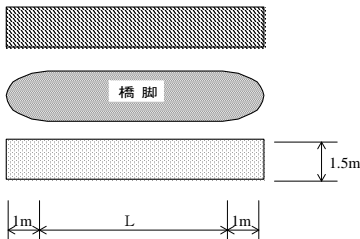
改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	
現 行	改 正	備 考	
<p data-bbox="181 400 349 437"><b>3. 参考</b></p> <p data-bbox="210 445 539 464">コンクリート削孔機種の選定は、下記を標準とする。</p>  <p data-bbox="719 762 831 799">D : 削孔径 (mm) ? : 削孔深 (mm)</p> <p data-bbox="197 1107 831 1126">※現場条件とは、作業スペース、騒音・振動による制限及び既設配筋間隔等による施工障害とする。</p> <p data-bbox="577 1342 629 1361">3-3-50</p>	<p data-bbox="1099 400 1267 437"><b>5. 参考</b></p> <p data-bbox="1160 778 1256 802">現行どおり</p>		
積算上の注意事項			(控え頁) 4/4

改 正 理 由	施工パッケージ化に伴う改正	改 正 現 行																																																																																																																				
現 行	改 正	備 考																																																																																																																				
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>8.2 支承取替工</b></p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>橋梁補修工のうち、鋼橋及びP C橋の金属支承からの支承取替工に適用するものとし、RC橋の支承取替には適用しないものとする。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>支承取替の数量、足場の掛面積を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>規 格</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支 承 取 替</td> <td>○</td> <td></td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足 場</td> <td>×</td> <td></td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格 支承取替の分類は以下のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>形 式</th> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種 類</td> <td>鋼 橋</td> <td>鋼 橋</td> <td>鋼 橋</td> <td>鋼 橋</td> <td>P C 橋</td> </tr> <tr> <td></td> <td>金属支承</td> <td>金属支承</td> <td>金属支承</td> <td>ゴム支承</td> <td>ゴム支承</td> </tr> <tr> <td>作用する反力 (kN) (t)</td> <td>1471.0 kN (150t) 以下</td> <td>1471.0 kN (150t) を超え 2451.7 kN (250t) 以下</td> <td>2451.7 kN (250t) を超え 3138.1 kN (320t) 以下</td> <td>1471.0 kN (150t) 以下</td> <td>1961.3 kN (200t) 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4. 数量算出方法</b></p> <p>(1) 足場面積は、現場条件、施工条件等を考慮して必要面積を算定するものとするが、一般には以下により算出する。</p> <p>足場面積 <math>A = (L + 2) \times 1.0 \times 2 \times n</math>  L : 橋台及び橋脚の長さ (m)  n : 橋台及び橋脚の数 (ただし橋台の場合は 1/2 とする)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>現行どおり</p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>橋梁補修工のうち、鋼橋及びP C橋の鋼製支承からの支承取替工に適用するものとし、RCの支承取替には適用しないものとする。</p> <p>適用できる範囲 ・ 鋼橋の支承形式は以下を標準とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種 類</th> <th colspan="3">鋼橋-鋼製支承</th> <th>鋼橋-ゴム支承</th> </tr> <tr> <th>I</th> <th>II</th> <th>III</th> <th>IV</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作用する反力 kN(t)</td> <td>1471.0kN (150t) 以下</td> <td>1471.0kN(150t)を超え 2451.7kN(250t) 以下</td> <td>2451.7kN(250t)を超え 3138.1kN(320t) 以下</td> <td>1471.0kN (150t) 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ P C橋の支承形式は以下を標準とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>P C橋-ゴム支承</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>形 式</td> <td>V</td> </tr> <tr> <td>作用する反力 kN(t)</td> <td>1961.3kN (200t) 以下</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>支承取替 (鋼橋)、支承取替 (P C橋)、支承 (材料費)、足場の数量を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、規格、支承形式、現場条件、供用日数とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区 分</th> <th>規 格</th> <th>支 承 形 式</th> <th>現 場 条 件</th> <th>供 用 日 数</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支 承 取 替 (鋼橋)</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支 承 取 替 (P C橋)</td> <td>○</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>支 承 (材料費)</td> <td>○</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>個</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足 場</td> <td>○</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 現場条件は以下を標準とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>現 場 条 件</th> <th>敷 形</th> <th>1 箱形 2 番</th> <th>1 箱形 1 番</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">次の頁に記載</p> </div> </div>				項目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考	支 承 取 替	○		基			足 場	×		m <sup>2</sup>			形 式	I	II	III	IV	V	種 類	鋼 橋	鋼 橋	鋼 橋	鋼 橋	P C 橋		金属支承	金属支承	金属支承	ゴム支承	ゴム支承	作用する反力 (kN) (t)	1471.0 kN (150t) 以下	1471.0 kN (150t) を超え 2451.7 kN (250t) 以下	2451.7 kN (250t) を超え 3138.1 kN (320t) 以下	1471.0 kN (150t) 以下	1961.3 kN (200t) 以下	種 類	鋼橋-鋼製支承			鋼橋-ゴム支承	I	II	III	IV	作用する反力 kN(t)	1471.0kN (150t) 以下	1471.0kN(150t)を超え 2451.7kN(250t) 以下	2451.7kN(250t)を超え 3138.1kN(320t) 以下	1471.0kN (150t) 以下	種 類	P C橋-ゴム支承	形 式	V	作用する反力 kN(t)	1961.3kN (200t) 以下	項目	区 分	規 格	支 承 形 式	現 場 条 件	供 用 日 数	単 位	数 量	備 考	支 承 取 替 (鋼橋)	○		○	○	×	基			支 承 取 替 (P C橋)	○		×	×	×	基			支 承 (材料費)	○		×	×	×	個			足 場	○		×	×	○	m <sup>2</sup>			現 場 条 件	敷 形	1 箱形 2 番	1 箱形 1 番				
項目	区 分	規 格	単 位	数 量	備 考																																																																																																																	
支 承 取 替	○		基																																																																																																																			
足 場	×		m <sup>2</sup>																																																																																																																			
形 式	I	II	III	IV	V																																																																																																																	
種 類	鋼 橋	鋼 橋	鋼 橋	鋼 橋	P C 橋																																																																																																																	
	金属支承	金属支承	金属支承	ゴム支承	ゴム支承																																																																																																																	
作用する反力 (kN) (t)	1471.0 kN (150t) 以下	1471.0 kN (150t) を超え 2451.7 kN (250t) 以下	2451.7 kN (250t) を超え 3138.1 kN (320t) 以下	1471.0 kN (150t) 以下	1961.3 kN (200t) 以下																																																																																																																	
種 類	鋼橋-鋼製支承			鋼橋-ゴム支承																																																																																																																		
	I	II	III	IV																																																																																																																		
作用する反力 kN(t)	1471.0kN (150t) 以下	1471.0kN(150t)を超え 2451.7kN(250t) 以下	2451.7kN(250t)を超え 3138.1kN(320t) 以下	1471.0kN (150t) 以下																																																																																																																		
種 類	P C橋-ゴム支承																																																																																																																					
形 式	V																																																																																																																					
作用する反力 kN(t)	1961.3kN (200t) 以下																																																																																																																					
項目	区 分	規 格	支 承 形 式	現 場 条 件	供 用 日 数	単 位	数 量	備 考																																																																																																														
支 承 取 替 (鋼橋)	○		○	○	×	基																																																																																																																
支 承 取 替 (P C橋)	○		×	×	×	基																																																																																																																
支 承 (材料費)	○		×	×	×	個																																																																																																																
足 場	○		×	×	○	m <sup>2</sup>																																																																																																																
現 場 条 件	敷 形	1 箱形 2 番	1 箱形 1 番																																																																																																																			
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																																																																																			

改 正 理 由	<b>施工パッケージ化に伴う改正</b>	改 正 現 行										
現 行	改 正		備 考									
<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>5. 参考図</b>            支承取替工における足場工は、下図に示す橋脚回り足場を標準とし足場工費の算定は次のとおりとする。            なお、現場条件等により、これによりがたい場合は別途考慮するものとする。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>橋脚回り足場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(H)4.1</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 10px; height: 20px;"></div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>足場面積</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>現行どおり</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>2. 支承取替工における足場工は、下図に示す橋脚回り足場を標準とする。          なお、現場条件等により、これによりがたい場合は別途考慮するものとする。</p> <p>現行どおり</p> <p>(2) 支承取替（鋼橋）の支承形式による区分は、以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">支承形式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— I</li> <li>— II</li> <li>— III</li> <li>— IV</li> </ul> <p>(3) 支承取替（鋼橋）の現場条件による区分は、以下のとおりとする。</p> <p style="margin-left: 20px;">現場条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 鈹桁（支承形式 II、IIIのみ）             <ul style="list-style-type: none"> <li>— 1 箱桁 2 番（支承形式 II、IIIのみ）</li> <li>— 1 箱桁 1 番（支承形式 II、IIIのみ）</li> </ul> </li> </ul> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">項目</th> <th style="width: 10%;">単位</th> <th style="width: 10%;">数量</th> <th style="width: 20%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場補修塗装工</td> <td style="text-align: center;">m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><b>4. 数量算出方法</b>            数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 支承（材料費）は、規格ごとにアンカーボルトを含み、個数を算出する。</p> <p>(2) 足場面積は、現場条件、施工条件等を考慮して必要面積を算定するものとするが、一般には次式により算定する。</p> <math display="block">\text{足場面積} A = (L + 2) \times 1.0 \times 2 \times n</math> <p style="margin-left: 40px;">L：橋台及び橋脚の長さ（m）            n：橋台及び橋脚の数（ただし、橋台の場合は 1/2 とする。）</p> </div>				項目	単位	数量	備考	現場補修塗装工	m <sup>2</sup>			
項目	単位	数量	備考									
現場補修塗装工	m <sup>2</sup>											
積算上の注意事項	3-8-4		(控え頁) 2/2									

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	備考																																																																																															
	現 行	改 正																																																																																																
	<p><b>8.3 沓座拡巾工</b></p> <p><b>1. 適用</b> 沓座拡巾工に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b> チッピング面積、アンカーボルトの本数を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b> 区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>チッピング</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>○</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>型 枠</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足 場</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分 アンカーボルトの本数をアンカーボルトの種類ごとに区分して算出する。</p> <p><b>4. 数量算出方法</b> 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) アンカーボルトは以下の内訳で算出する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンカーボルト</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注 入 材</td> <td>○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> <td>樹脂アンカーを除く</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 足場工は、支取替工の足場工を適用し、足場工面積は以下の方法により算出する。</p> <p style="text-align: center;">足場工面積A = (L + 2) × 2 × 1.5 × n  L : 橋台及び橋脚の長さ (単位: m)  n : 橋台及び橋脚の数 (ただし橋台の場合は1/2とする。)</p> <p style="text-align: center;">3-8-5</p>	項目	区分	規格	単位	数量	備考	チッピング	×	m <sup>2</sup>				アンカーボルト	○	本				コンクリート	○	m <sup>3</sup>				型 枠	×	m <sup>2</sup>				足 場	×	m <sup>2</sup>				項目	区分	規格	単位	数量	備考	アンカーボルト	○	本				注 入 材	○	kg			樹脂アンカーを除く	<p>現行どおり</p> <p><b>1. 適用</b> 沓座拡巾工のうち削孔工、チッピング工、アンカーボルト挿入工、足場工及び防護工に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b> チッピング (厚1~2cm)、アンカーボルト挿入、アンカーボルト (材料費)、注入材 (材料費) の数量を算出する。</p> <p>現行どおり</p> <p>(1) 数量算出項目一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>チッピング (厚1~2cm)</td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト挿入</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト (材料費)</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>注入材 (材料費)</td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>削孔工</td> <td>孔</td> <td></td> <td>「第3編（道路編）3.2.2 落橋防止装置工」参照</td> </tr> <tr> <td>足場工</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>「第3編（道路編）8.2 支取替工」参照</td> </tr> <tr> <td>防護工</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td>「第3編（道路編）3.2.1 床板補強工」参照</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 防護工は、鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れのある場合に設置するものとし、板張を原則とする。</p> <p><b>4. 数量算出方法</b> 数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) アンカーボルト（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。</p> <p>(2) 注入材（材料費）は、ロスを10%とし規格ごとに1本当りの使用量（kg）を算出する。</p> <p>(3) 足場面積は、現場条件、施工条件等を考慮して必要面積を算定するものとするが、一般には次式により算定する。</p> <p style="text-align: center;">足場工面積A = (L + 2) × 2 × 1.5 × n  L : 橋台及び橋脚の長さ (m)  n : 橋台及び橋脚の数 (ただし橋台の場合は1/2とする。)</p>	項目	規格	単位	数量	備考	チッピング (厚1~2cm)	×	m <sup>2</sup>			アンカーボルト挿入	○	本			アンカーボルト (材料費)	○	本			注入材 (材料費)	○	本			項目	単位	数量	備考	削孔工	孔		「第3編（道路編）3.2.2 落橋防止装置工」参照	足場工	m <sup>2</sup>		「第3編（道路編）8.2 支取替工」参照	防護工	m <sup>2</sup>		「第3編（道路編）3.2.1 床板補強工」参照	
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																																													
チッピング	×	m <sup>2</sup>																																																																																																
アンカーボルト	○	本																																																																																																
コンクリート	○	m <sup>3</sup>																																																																																																
型 枠	×	m <sup>2</sup>																																																																																																
足 場	×	m <sup>2</sup>																																																																																																
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																																													
アンカーボルト	○	本																																																																																																
注 入 材	○	kg			樹脂アンカーを除く																																																																																													
項目	規格	単位	数量	備考																																																																																														
チッピング (厚1~2cm)	×	m <sup>2</sup>																																																																																																
アンカーボルト挿入	○	本																																																																																																
アンカーボルト (材料費)	○	本																																																																																																
注入材 (材料費)	○	本																																																																																																
項目	単位	数量	備考																																																																																															
削孔工	孔		「第3編（道路編）3.2.2 落橋防止装置工」参照																																																																																															
足場工	m <sup>2</sup>		「第3編（道路編）8.2 支取替工」参照																																																																																															
防護工	m <sup>2</sup>		「第3編（道路編）3.2.1 床板補強工」参照																																																																																															
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																																																															

工 種	沓座拵巾工
-----	-------

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行	
現 行	改 正	備 考	
<p>5. 参考図</p> <p>足場面積</p>  <p style="text-align: center;">3-8-6</p>	<p style="text-align: center;">} 現行どおり</p>		
積算上の注意事項			<p>(控え頁)</p> <p>2/2</p>

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正	改正 現行																																																																																																																				
現 行	改 正		備 考																																																																																																																			
<p>8.4 桁連結工</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>1. 適用</b></p> <p>桁連結工に適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>連結板製作、取付、足場を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>連結板製作</td> <td>○</td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>取 付</td> <td>×</td> <td></td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足 場</td> <td>×</td> <td></td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 規格区分 規格による区分は、「第3編（道路編） 4章鋼橋上部工 4.1鋼材 4.1.1橋梁本体 3.区分」によるものとする。</p> <p><b>4. 数量算出方法</b> 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 取付は以下の項目で算出する。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>芯出し素地調整</td> <td>○</td> <td></td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現場孔明</td> <td>×</td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>連結板取付</td> <td>×</td> <td></td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現場溶接</td> <td>○</td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ボルト締め</td> <td>×</td> <td></td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現場塗装</td> <td>○</td> <td></td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 足場の面積は、橋台幅×1.5mとして算出する。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>現行どおり</p> <p><b>1. 適用</b></p> <p>桁連結工における芯出し素地調整、現場孔明、連結板取付、現場溶接、ボルト締めに適用する。</p> <p><b>2. 数量算出項目</b></p> <p>桁連結装置（材料費）、芯出し素地調整、現場孔明、連結板取付、現場溶接、ボルト締めの数量を区分ごとに算出する。</p> <p><b>3. 区分</b></p> <p>区分は、規格、作業条件とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>作業条件</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>桁連結装置（材料費）</td> <td>○</td> <td></td> <td>×</td> <td>t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>芯出し素地調整</td> <td>○</td> <td></td> <td>×</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現場孔明</td> <td>×</td> <td></td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>連結板取付</td> <td>×</td> <td></td> <td>×</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現場溶接</td> <td>○</td> <td></td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ボルト締め</td> <td>×</td> <td></td> <td>○</td> <td>本</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 作業条件の「作業性の悪い箇所等」は、作業性の悪い箇所の他、構造的に複雑なもの、1箇所当りのボルト本数の少ない場合（10本/箇所未満）とする。 2. 溶接脚長は8～12mmの場合とする。 3. 作業条件の「作業性の悪い箇所等」は、作業性の悪い箇所の他、構造的に複雑なもの、1箇所当りのボルト本数の少ない場合（10本/箇所未満）とする。</p> <p>(2) 作業条件による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>作業条件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 10本以上/箇所</li> <li>— 作業性の悪い箇所等</li> </ul> </div> </div>				項目	区分	規格	単位	数量	備考	連結板製作	○		t			取 付	×		箇所			足 場	×		m <sup>2</sup>			項目	区分	規格	単位	数量	備考	芯出し素地調整	○		m <sup>2</sup>			現場孔明	×		本			連結板取付	×		箇所			現場溶接	○		m			ボルト締め	×		本			現場塗装	○		m <sup>2</sup>			項目	区分	規格	作業条件	単位	数量	備考	桁連結装置（材料費）	○		×	t			芯出し素地調整	○		×	m <sup>2</sup>			現場孔明	×		○	本			連結板取付	×		×	箇所			現場溶接	○		×	m			ボルト締め	×		○	本		
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																																																																	
連結板製作	○		t																																																																																																																			
取 付	×		箇所																																																																																																																			
足 場	×		m <sup>2</sup>																																																																																																																			
項目	区分	規格	単位	数量	備考																																																																																																																	
芯出し素地調整	○		m <sup>2</sup>																																																																																																																			
現場孔明	×		本																																																																																																																			
連結板取付	×		箇所																																																																																																																			
現場溶接	○		m																																																																																																																			
ボルト締め	×		本																																																																																																																			
現場塗装	○		m <sup>2</sup>																																																																																																																			
項目	区分	規格	作業条件	単位	数量	備考																																																																																																																
桁連結装置（材料費）	○		×	t																																																																																																																		
芯出し素地調整	○		×	m <sup>2</sup>																																																																																																																		
現場孔明	×		○	本																																																																																																																		
連結板取付	×		×	箇所																																																																																																																		
現場溶接	○		×	m																																																																																																																		
ボルト締め	×		○	本																																																																																																																		
積算上の注意事項			(控え頁) 1/2																																																																																																																			

改正理由	施工パッケージ化に伴う改正		改正 現行																									
現 行	改 正			備 考																								
<div style="border: 2px solid red; width: 100%; height: 100%;"></div>	→	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>関連数量算出項目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項目</th> <th style="text-align: center;">単位</th> <th style="text-align: center;">数量</th> <th style="text-align: center;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取付用アンカーボルト</td> <td>本 (t)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>取付用高力ボルト</td> <td>本 (t)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>現場塗装工</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足場工</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防護工</td> <td>m<sup>2</sup></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 塗装工は、下塗1回、中塗1回、上塗1回を標準とするが、ケレンの度合によって下塗2回を考慮すること。 2. 足場工及び防護工は、杓座拵巾の足場工及び防護工と同様にするが、面積は橋台巾×1.5mとする。</p> <p><b>4. 数量算出方法</b> 数量算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 桁連結装置(材料費)は、質量(t)を算出する。 注) 取付用アンカーボルト・高力ボルト類は別途算出する。</p> <p>(2) 塗装工は、規格・仕様ごとに面積(m<sup>2</sup>)を算出する。</p> <p>(3) 足場工の面積は、橋台巾×1.5mとし面積(m<sup>2</sup>)を算出する。</p> </div>	項目	単位	数量	備考	取付用アンカーボルト	本 (t)			取付用高力ボルト	本 (t)			現場塗装工	m <sup>2</sup>			足場工	m <sup>2</sup>			防護工	m <sup>2</sup>			→	
項目	単位	数量	備考																									
取付用アンカーボルト	本 (t)																											
取付用高力ボルト	本 (t)																											
現場塗装工	m <sup>2</sup>																											
足場工	m <sup>2</sup>																											
防護工	m <sup>2</sup>																											
積算上の注意事項				(控え頁) 2/2																								